

# Romantische Straße

ドイツの熱い系譜、日本へ。  
 熟した車を生み出した。今  
 ルスウィーゲン・サンタナ。今  
 度無制限の道は、現代をその  
 のである。一つの、両極をな  
 す道が織りなす文化は、成  
 熟した車を生み出した。今  
 ルスウィーゲン・サンタナ。今



ロマンティック街道から。  
 サンタナ、ドイツの香りをのせて。

## VWの最高級車

サンタナ。ドイツ車らしい端正なフォルムに、高性能を  
 包んで登場です。独特の5気筒4型エンジンと、オー  
 ロックの高性能車に比べられるKジェトロニックの組み  
 合わせて、低速から高速まで、力強い走りを実現しま  
 した。オートマで鍛えられた足回りは、高速走行  
 安定性、直進性、旋回性、乗り心地のすべてに素晴  
 らしい性能を与えています。長距離走行も苦にならない  
 シートなど、感性の領域にまで及ぶドイツ流の徹底。これ  
 は、実際にドアを開け、ご確認いただくしかありません。



Photo : 2000X15

VWサンタナ  
 新登場

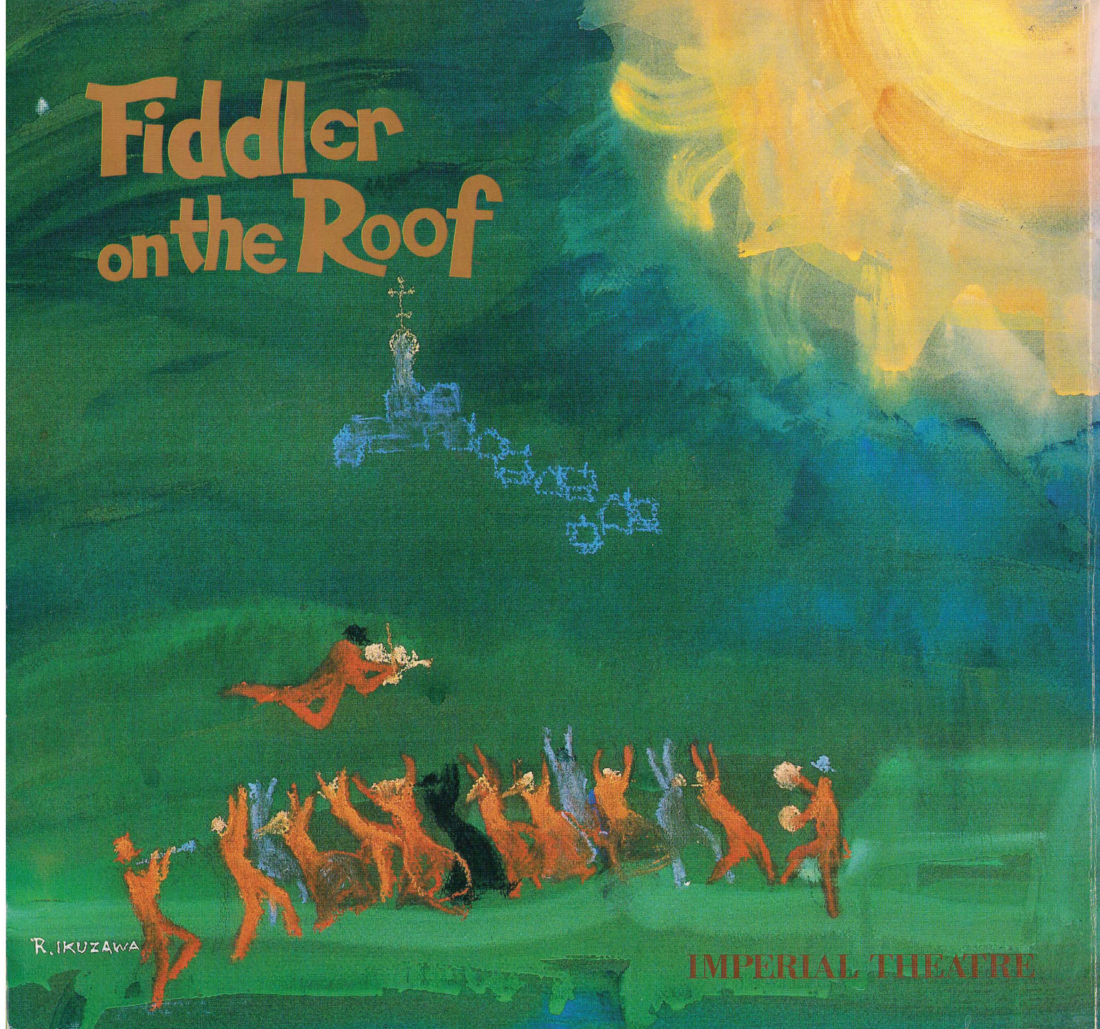
全国  
 二所合は  
 日産サニー  
 ヤナセ各支店  
東京・大阪・名古屋・福岡・横浜・札幌・神戸



# SANTANA

● 2000 cc 5気筒 K ジェトロニック / 2000 X15, 2000 G15 ● 1800 cc 4気筒 K ジェトロニック / 1800 G1, 1800 L1 ● 1600 cc 4気筒 ターボディーゼル / 1600 ターボディーゼル Gt, 1600 ターボディーゼル Lt

# Fiddler on the Roof



R. I. KUZAWA

IMPERIAL THEATRE



東宝ミュージカル特別公演

# 屋根の上のヴァイオリン弾き

ショラム・アレイハムの小説による

(2部18巻)

ジョセフ・スタイン＝台本  
ジェリー・ボック＝音楽  
シェルドン・ハーニック＝作詞  
オリジナルプロダクション演出・振付＝ジェローム・ロビンズ  
サミー・ペイス＝日本再演の演出・振付  
製作＝佐藤 勉・永野 誠

## TOHO CO., Presents FIDDLER ON THE ROOF

BASED ON SHOLOM ALEICHEM'S STORIES

Book by **JOSEPH STEIN**  
Music by **JERRY BOCK**  
Lyrics by **SHELDON HARNICK**

Original New York  
Production Directed  
and Choreographed by  
**JEROME ROBBINS**

Presented on The  
New York Stage by  
HAROLD PRINCE

By Special Permission of  
ARNOLD PERL

4月1日⇒5月31日

帝国劇場  
IMPERIAL THEATRE

## 大人のメルヘンを描く サラ・ミッダの世界



欧米で一大センセー  
ションを巻き起し  
た「IN AND  
OUT OF  
THE  
GARDEN」  
宝飾のような散  
りめられた野菜  
やフルーツ、その  
イラストに添えら  
れたボエム、エビッ  
裁縫法、その文がすべて描き  
であること再び目を驚かせます。  
美しいイラストとレタリングで綴られ  
た「IN AND OUT OF THE  
GARDEN」は、日本版「サラ・ミ  
ッダのガナッシュ」は、両集ともて  
りなく、読み物としても高い評価を  
得、発行後にも欧米で一大センセ  
ーションを巻き起こしました。ページ  
を繰れば、そこに広がる田園のノスタ  
ルジ、19世紀以上の歴史  
をもつ、伝説のホビーとして

イギリスの田園風景を繊細なタッチで描く  
ロンドンの女流イラストレーター、サラ・  
ミッダ。その情懷豊かなメルヘンの世界は  
大地に根ざした新鮮な感動を呼びおしま  
す。三種では、の若き才媛たるサラ・ミ  
ッダにいち早く着目し、彼女の感性を生か  
したオリジナルブランドを制作しました。  
企画から製本に至るすべての過程  
に彼女の意を反映した文字通り  
サラの世界を表現する物語りを  
は、サラ・ミッダの物語りを



「サラ・ミッダ」1950年発表の32  
歳、幼い時から絵が好きで、ゴッ  
ドスミスを終えてセントマーチンズのホ  
ルのアートカレッジへのカレッジ  
時代に出会ったタイボグワイ・植子



縁に親しんでいたイギリスの人たちの  
心がどのページにもついています。  
すが心かきけるガナッシュの世界。そ  
れはゴッテ・ガナッシュとあれば今も  
イギリス郊外のあらに受けられる  
の通りくぐりの世界です。  
野やヒリスに覆われた山、その  
花々に群がる蜜蜂、光を浴びるキッ  
の意匠を埋めつくす野菜、ハーブ  
の自然延長とし  
つくり、  
自然を  
観賞用  
だけの庭  
で、その  
食料にのほ  
せる実用た  
めつけ



「サラ・ミッダ」1950年発表の32  
歳、幼い時から絵が好きで、ゴッ  
ドスミスを終えてセントマーチンズのホ  
ルのアートカレッジへのカレッジ  
時代に出会ったタイボグワイ・植子

「サラ・ミッダ」1950年発表の32  
歳、幼い時から絵が好きで、ゴッ  
ドスミスを終えてセントマーチンズのホ  
ルのアートカレッジへのカレッジ  
時代に出会ったタイボグワイ・植子



東京都中央区日本橋区本町1-7  
電話東京区(03)3245-1111(大内線)



「IN AND...」に掲載されたイ  
ラストもタリオンも、旅境を使っ  
てすべてと同じサイズで描き上げら  
れました。完成までに3年。こんなエ  
ピソードにも彼女の素晴らしい感性  
がうかがえます。  
こんなには「サラ・ミッダ」  
暮らしにその感性を  
飲み干したテイラーアップ、底から顔  
のぞかせたキュートな顔、シユガハ  
ットの小さな蓋のつまみ、つまみ  
の一匹の蜜蜂、彼女の心にかかると  
何もない自然もフアブリックもい  
きと飾り始めます。  
タイル、ソープ、クッキー、フルッ  
ハニー、ステイショナリー等々、い  
ずれもサラ・ミッダの底からは色味、持  
味、感性を生かしたものはばかり。  
二月にオープンした、本店2階の「ハ  
ウス・オブ・サラ・ミッダ」へ一度お出  
かけになりませんか。サラの作品はさ  
つと私たちの暮らしに新鮮な風を送り  
込んでくれることでしょう。







# テヴィエに乾杯

文部大臣 森

喜朗



森繁久彌さんの『屋根の上のヴァイオリン弾き』は、すでに全国各地で公演され、このたびの帝国劇場公演の初日が七三二回目とうかがいました。

この驚異的な回数は、作品のテーマが多くの人のびとの共感を呼んだこともありですが、やはり、森繁久彌さんという豊かで強烈な個性がなければ成り立たなかった話でありましょう。そして森繁さんを取りまく演技陣の層の厚さが、この舞台を一層魅力的なものにしているように思います。

森繁さんのテヴィエは、五人の娘の父親であり、世間によくある恐妻家であり、更に、三人の娘を嫁がせる切ない父親でもあります。

この森繁テヴィエを拝見していると、翻訳ミュージカルの主役というより、まさに典型的な日本の父親像を見る思いがいたします。森繁さんの芸の力でありましょう。帝政ロシア時代のユダヤ人の迫害というテーマのなかに、貧しいが陽気なテヴィエ一家の哀歓が描かれます。三人の娘たちは、さまざまの「しきたり」を破って、あるいは無視して、恋人のもとに嫁いでいきますが、その娘たちへ寄せるテヴィエの愛情深い心づかいは、また、日本の古い昔からの父親像でもありました。

ミュージカル『屋根の上のヴァイオリン弾き』が私たちを深く感動させるのは、どこの国、いつの時代にもいる、この哀しい父親像への共感があるからではないかと、私は思います。

森繁さんならではの舞台と、それを支える大勢の皆さんに、心からの拍手をお贈りするとともに、公演の御成功をお祈りいたします。

## 不滅の金字塔をさらに高く

東京都知事

鈴木 俊一



多くの方々お待ち望んでいた森繁さんのミュージカル『屋根の上のヴァイオリン弾き』が再び公演される運びとなりましたことを心からお慶び申し上げます。

東京都は、都民文化・スポーツ栄誉賞を創設しましたが、昨年、最初の受章者として、森繁さんに「都民文化栄誉章」をお贈りいたしました。

その理由は、長年にわたる多彩な芸能活動とともに、当時七〇七回にも及んだ『屋根の上のヴァイオリン弾き』の公演で、主人公「テヴィエ役」を演じられ、多くの都民に深い感動を与えられたことに対してであります。

私はかねてから、この東京を、国の内外いずれの都市にもまして、文化の香り豊かなまちにしていこうことを願って、文化振興を都政における主要な施策として位置づけてまいりました。

また、その推進にあたっては、文化を人の生きがいを見出すという視点からとらえ、その拡がりや質の向上に努めているところです。

森繁さんの芳醇にしかつ幅広い芸は、まさにこの点からも、観る人々に芸術への深い共感と親しみをよぶに違いありません。

昨年、芸能生活五〇周年と、御家庭では金婚式という素晴らしい年を送られた森繁さんにとって、ライフワークともいべき今回の公演は、我が国の演劇界に打ちたてられた不滅の金字塔を、さらに高く築いていくことにほかならないと思います。

承るところにより、テヴィエ役は実に一日に一五キロもの距離を走りまわるほどハードなものとありますが、共演者、スタッフの皆さん方ともども健康に十分留意されて、この公演が再び感動をよびおこす一つ一日も長く続けられることを祈ってやみません。



ごあいさつ

森繁久彌

遂に帝劇では六回目の公演です。

一昨年には六ヶ月のロングランでした。ともかく二十年近い長い航海ですっかり老朽化した船体をドックに入れて再修理をし、再び新しい船出につくのにも似ています。

不朽の名作「屋根の上のヴァイオリン弾き」は再度三十日間の稽古をして又も新しい魅惑が蘇り全員はこの作品に酔いしれたほどです。

初めて上演したのは、一九六七年（昭和四十二年）思えばこれもミュージカルの古典になるようなものです。しかし、あの初演の興奮は今もまざまざと心身によみがえります。今度も又めくるめくような舞台を創り上げようと情熱を燃しています。が、それが決して垢じみたものにならず、長い間に発酵した古い酒の味にも似たものをと願っています。

既にご覧になった方には懐かしいものですが、今日はじめて御覧いただく方々には又新しい感動を投じるものと確信しております。

実は私も間もなく七十一歳、これが私のライフワークとなると思いますので、一生懸命舞台をつとめます。







# Fiddler on the Roof

舞台写真より

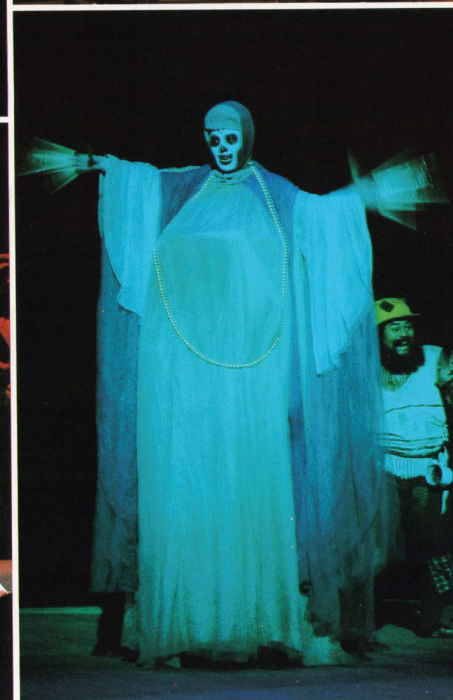
写真撮影・佐々木正和







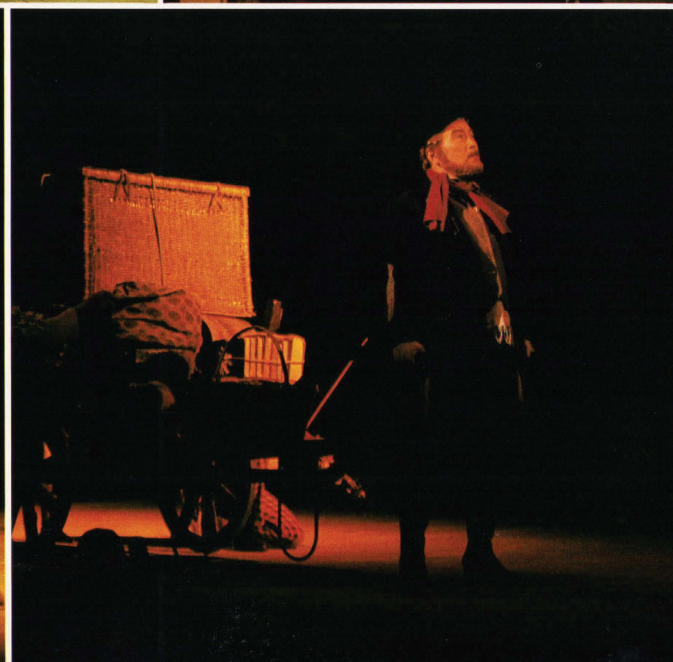
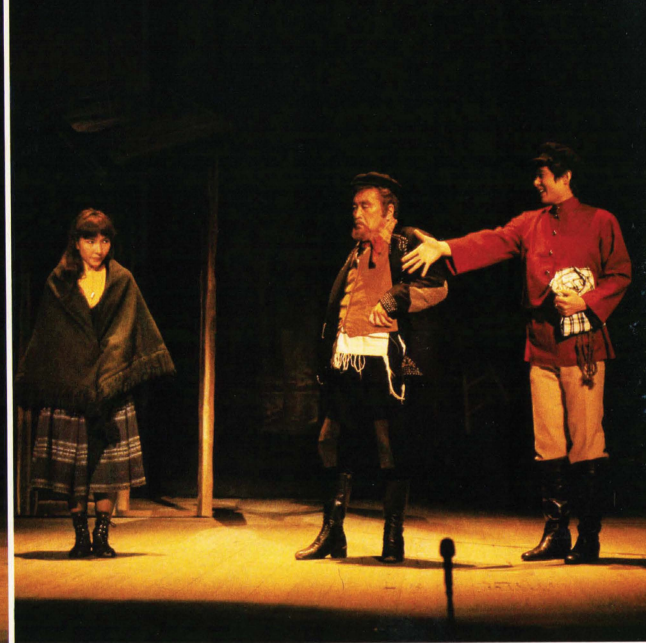
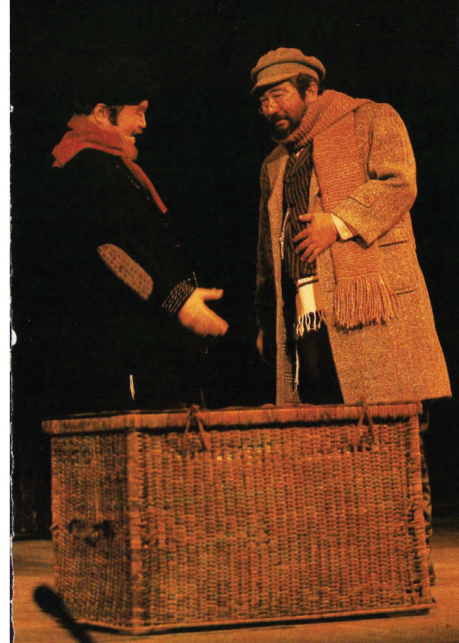
























## きっとたのしい旅になる。

くつろげるスペース。くつろげる雰囲気。くつろげるサービス。“泊り”の場所がこうあってこそ、どんな旅行もたのしいものとなる。しかもそれを、低廉な料金で利用できることが、旅をさらに、たのしくする。第一ホテルは昭和13年4月、そうした“泊り”の“場”を整えて創業。いらい、40余年がすぎた。新橋第一ホテル(新橋駅から徒歩2分)銀座第一ホテル(新橋駅から徒歩5分)東京第一ホテル(仙台駅から徒歩5分)宮城第一ホテル(仙台駅から徒歩2分)土浦第一ホテル(土浦駅から徒歩5分)真波第一ホテル(土浦駅から徒歩10分)名古屋第一ホテル(名古屋駅から徒歩1分)富山第一ホテル(富山駅から徒歩7分)大阪第一ホテル(大阪駅から徒歩2分)高松国際ホテル(高松空港から車10分)高知第一ホテル(高知駅から徒歩2分)東京第一ホテル(福岡博多駅、車7分)大分第一ホテル(大分駅から徒歩1分)

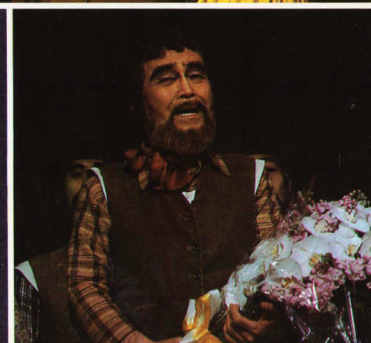
グアム第一ホテル(グアム空港、車5分)  
ホテルロイヤル(マカオ港から車5分)  
(マカオ第一ホテル)

秋田キャッスルホテル(秋田駅徒歩5分)  
今治国際ホテル(今治港から車で5分)

第一イン鶴岡(鶴岡駅から徒歩3分)  
第一イン原田(原田駅から徒歩2分)  
第一イン池袋(池袋駅から徒歩2分)  
第一イン新湊(高岡駅から徒歩20分)  
第一イン福山(福山駅から徒歩5分)  
第一イン岡山(岡山駅から徒歩2分)

ご予約お問い合わせは下記へどうぞ  
東京レザベーション ☎ (03)501-5161  
札幌営業所 ☎ (011)241-5605  
仙台営業所 ☎ (022)65-4327  
金沢営業所 ☎ (0762)23-4821  
名古屋営業所 ☎ (052)203-1301  
大阪営業所 ☎ (06)341-3200  
広島営業所 ☎ (082)247-0588  
福岡営業所 ☎ (092)714-5801

**東京第一ホテルチェーン**







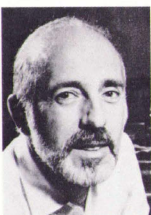
本日は、ご来場下さいまして誠に有難うございます。

「屋根の上のヴァイオリン弾き」は、ブロードウェイのミュージカルとして一九六四年、インベリアル劇場で産声をあげました。日本では、昭和四十二年（一九六七）、新装開場まもない帝国劇場で初日をあげました。当時は今のように舞台にミュージカルというジャンルが定着する遙か以前の時代でした。その後、皆様の絶大なご支援により、「屋根の上のヴァイオリン弾き」は繰り返し上演する機会を得、数多の上演記録を樹立することが出来ました。そして、ミュージカルの気運は今や日本中に満ち満ちています。「マイ・フェア・レディ」「ザ・サウンド・オブ・ミュージック」「ラ・マンチャの男」等々、初演以来今日まで評判を得て再演され続けている名作がいくつもある中で、この「屋根の上のヴァイオリン弾き」は、ミュージカル最多上演記録を公演の度に更新し、すでに一五〇万人以上のお客様の絶賛を得、この度の公演で更に多くの方々にご覧いただくとしております。この間、北は北海道から、南は九州、沖縄に至るまで、全国を縦断して公演していった十七年間の「屋根の上のヴァイオリン弾き」の姿と歩みは、そのまま、日本中にミュージカルの灯をともしとして歩いた姿であり、今日のミュージカルの隆盛のまさしく原動力となりました。限らない情熱と愛情で関係者全員をひっぱり続けて下さった森繁久彌さんをはじめ、それにたずさわったすべての人々に熱い拍手を送ると同時に、客席からあたたかく励まして下さるお客様がいらつしやればこそと存じ、心より御礼を申し上げます。お客様のお一人お一人が、このミュージカルを支え、創って下さったのです。本当に有難うございました。

人間の深みに裏うちされた芸術の気高さ、そしてそれを愛してそこにひたむきに生きている人間の姿、演じる人、観る人。共に生きる共感に胸ふるわせるひとときを、今日も皆様と共有できることを念願してやみません。

## 屋根の上のヴァイオリン弾き 日本公演に寄せて

ジェローム・ロビンス



August 24, 1962

STATEMENT from JEROME ROBBINS

The story of FIDDLER ON THE ROOF is the story of change. It concerns a village and its people which are caught in the cultural forces of historical, economical and political events, all of which liberate the village's rigid traditions and alters their way of life.

The book by Joseph Stein, is based on some of the stories of Sholem Aschheim, who chronicled the life of the Jewish ghetto village in Russia without sentiment but with enormous love and critical clarity. The music by Jerry Block, rises from the state of ethnic folk melodies of Russia and the Jewish people located there at the turn of the century. The lyrics by Sholom Hershovitz, likewise are flavored with the nuances and colorful folk expressions of the period of the time.

The particular stories selected for FIDDLER ON THE ROOF center on the struggle of the diaspora, Jews, to make good between the life struggle and traditions that he was born into, and the events, movements and changes that affect his life and family. In creating FIDDLER ON THE ROOF all of us believe that in the talent brought to the book, the lyrics and the music, we can cross the bridge between the differences between foreign culture and see clearly the universal experience of change. We hope that for every audience it has an immediate and respectable identity.

We also feel it necessary to try to record and celebrate the times and events that were lost. For even though the traditions and customs have changed, the lives of succeeding generations now existing in other countries, the original village and its people have disappeared from the very earth they lived on.

「屋根の上のヴァイオリン弾き」の物語は変遷の歴史である。それは歴史的、経済的、政治的事象の、激しい現実にあ押しまくられる村と、その村人たちの生活に関する物語で、これらの一つ一つの出来事は、村のあらゆる厳格な伝統を蹂躪し、村人たちの生き方を変えていった。

このジョセフ・スタインによる脚本は、シローム・アシュヘイムの原作に基づいたものである。アレキサンダー・ロシヤにあるユダヤ人村の生活を、個人的な感情を入らず、大きな愛情と批判的の目で記録した。ジェリー・ブロック作曲の音楽は、ロシアの人種的な民謡メロディ風味と十九世紀から二十世紀にかかると、そこに住んでいたユダヤの人たちの風俗から生まれたものである。シェルドン・ハーニック作の歌詞も同様に、これらのニュアンスや、韻律、そして当時の民族の表現を加味したものである。

「屋根の上のヴァイオリン弾き」に使われたこの物語は酪農夫テグヴィエの苦難：「即ち、彼が生まれた世界の伝統と、彼の生命及び家族を脅かす社会的出来事や、変動との葛藤に平和をもたらしそうとする努力に、まともなものはついていない。屋根の上のヴァイオリン弾き」を製作するに当り、彼の家族と彼の信仰とをしりか握りしめておきたいという、雄々しいテグヴィエの奮闘の中に、観客は、外国文化間の相違に立派なかけ橋を渡すことが出来る。また、変遷の普遍的な経験をつぶさに見ることも出来る。私は確信している。観客の一人一人が、この事を直ちに、また十分に分って頂けることを希望する。

また、われわれは失われた時代と儀式を記録にとどめ、そして祝おうとすることが必要であると思ふ。なぜなら、深く根ざした儀式的伝統と習慣が、他の国々に現存する後代の生活の中に浸透したとしても、彼らの村や、人々は、住んで来た地球から消えて行ってしまうからである。

(この稿は昭和四十二年、帝國初演に際し寄せられたものです)



サミー・ペイッス

"FIDDLER ON THE ROOF"

"FIDDLER ON THE ROOF" has been selected one of the great musicals of American Theatre. The work of the creative staff spanned a five year period prior to meeting at the Imperial Theatre in New York. As a member of the original cast, I had the opportunity of being involved with part of that creative period. There was six weeks rehearsal followed by 3 weeks out of 12 (11 weeks in Detroit and 4 weeks in Washington D.C.). The show that opened in Detroit was quite different than the final version which opened in New York City nine weeks later. The reason for taking a show "on the road" is to test audience reaction and to find where the weak points lie in the production. This is where the creative work begins, for the creative staff and production staff.

In Detroit, and also Washington D.C., we did 8 performances a week. Six evening shows and two matinees. On days with only evening shows we rehearsed five hours a day, and on days with two performances we worked two hours a day. In our rehearsal of a whole musical number or scene could be changed and put in the same night. This schedule went on until opening in New York. The material that went to and came out seemed to be enough to create a whole second version of "Fiddler". Mr. Robbins had many different versions of the show, and every night we seemed to play a different one. This made for a very exciting creative period. During this period the show seemed to be bigging up the "wax" with big exciting production numbers. There was never worry of having money trouble. What made "Fiddler" the success it is in that all of the fat (i.e. anything not necessary to the progression of the story) was eventually taken out. Thus, the show takes its simplest and most basic form line in its conclusion. To my way of thinking this is the essence, which made "Fiddler on the Roof" the brilliant piece of theatre it was and remains today.

「屋根の上のヴァイオリン弾き」は、米国演劇の大作ミュージカルの一つとして喝采を浴びてきた。創作スタッフの仕事は、ニューヨークのインベリアル劇場で初日をあげる以前に、五年にもわたってなされた。初演のときの配役の一人として、私はその創作期の一部にかかわり合う機会を得た。六週間のけいこの後、九週間も「ロード」地方公演に出た。デトロイトで五週間、ワシントンD.C.で四週間、デトロイトで開演した舞台は、それから九週間後にニューヨーク市で開演した最終的なものと全く異なっていた。だがこれは「ロード」に持つ行理由は、大衆の反応を試すこと、作品中の弱点がどこにあるかを発見するためである。このときから、創作スタッフ、演出者、製作スタッフによって骨の髄まで削られる仕事が始まるのだ。デトロイト及びワシントンD.C.では一週に八回公演だった。夜の公演はマナーナが二回、日曜日のときは五時間開けいこをした。一日のけいこ中に、ミュージカル・ナンバークは二回、ナンバークが変更されて、その変更したものをその夜上演することもあった。このスケジューリングは全ニューヨークで初日をあげるまで続いた。入れたら出した材料は、もう一つの「屋根の上の」を作るに十分な程に思われた。ロビンス氏はのだけれども多くの異なった見解を持っており、毎夜異なったものの上を上演しているように思われた。だから、材料不足という心配は全く無かった。「屋根の上の」が最後に成功させたのは、全ての脂肪、すなわち物語の進行に不必要なものは何でも、」が最後に取り去られたことである。このように、このショーは最も簡潔で正當な方向に向ってしめくられる。私流で考えでは、これこそが「屋根の上のヴァイオリン弾き」を演劇界の輝ける作品に、今日大に輝き続けるようにしたエッセンスなのである。

(この稿は昭和四十五年、日生劇場公演の際寄せられたものです)







かの間取りにかられますが、思えばこれも娘の幸せにやがること、神様お許し下さるだろう。二人は愛によって結ばれている、愛といえれば自分達はどうなんだろう？ あつてにとられるゴルドデにそつと聞かせるテウイエ。愛しているかい？」

村では当の二人の話でもちきり。情報屋のイエンテがさかんにあちこちで噂をまきちらしています。《ゴソツツ》

パーチャツがキエフで捕えられ、シベリヤ送りに……。ホーデルははるばるシベリヤへ愛する男を訪ねていく決心をしました。父母と別れ、妹達と別れて、ただ一人旅立つホーデル。愛する我が家はなれて、

村には何事もなかったかのように、平穏な毎日が。モーデル達に赤ん坊が生まれ、待望のミシンが入る。テウイエの安息もつかの間、今度はチャツアが、人もあろうにロシア人のフョードカと一緒にいるというのです。家出

をしたチャツア。「チャツアは死んだ」テウイエの悲痛な叫び。娘をいつくしみながら歌います。《チャツアよ》

ついに人々が長年住みなれたアナテフカを去る日がやってきました。

「我々はどこか別のところで救世主をお待ちしよう」司祭の声は静かですが、悲痛な想いが溢れています。人々はそれぞれの新しい人生を求めて去って行く。テウイエ一家は遠くアメリカへ、断腸の想いでふるさとを後にする人々が唱和します。《アナテフカ》

ひりゆくテウイエの足取りは重く、荷車を去り腕の力もただ空しい。さようなら、アナテフカ……ミシンとテウイエのあつた、ワアイオリン弾きがトボトボとついてゆく。テウイエの影であり心であつた屋根の上のワアイオリン弾き……。離散する人々の哀しみをのせてすすりなくような音色が、素朴な調べを奏でつつ……。

## 第一幕

### プロローグ

貧しい酪農家 テウイエ  
父親たちのグループ  
肉屋 ラザール・ウォルフ  
居酒屋の亭主 モーデル  
帽子屋 ユツセル  
本屋 アヴラム  
乞食 ナフム  
魚売り  
母親たちのグループ  
テウイエの妻 ゴールド  
仲人婆さん イエンテ  
モーデルの母 シャンデル  
その他の母親たち

森 繁久彌  
上 條恒彦  
横 沢祐一  
安 田 琢  
右 下 磨  
今 村 堅  
荒 井 洗  
福 田 裕子  
森 田 公美子  
三 上 直也

### 他 息子たち

娘 たち  
《娘たちのグループ》  
司 祭  
ギリシア正教の僧侶  
ロシアの青年 フョードカ  
サーシヤ  
他 ロシア人たち

新 野 口 茂樹  
大 城 孝 明  
比 呂 誠 一  
水 城 人  
花 優 一  
平 井 美 子  
井 上 口 美 子  
平 井 美 子  
益 井 美 子  
金 井 美 子  
金 井 美 子  
石 井 美 子  
永 井 美 子  
真 井 美 子  
菊 井 美 子

巡查部長  
ヴァイオリン弾き  
坂 上 道之助  
須 賀 不二男

### 第一場 テウイエの家の台所 《ある安息日ユダヤ教では土曜日》

ゴルド  
長女 ツァイトル  
次女 ホーデル  
三女 チャツア  
四女 シュプリンツエ  
五女 ビルケ  
仲人婆さん イエンテ  
仕立屋 モーデル

淀 繁久彌  
江 崎 英子  
安 崎 良子  
森 山 由利子  
松 岡 由利子  
吉 岡 由利子  
和 泉 純子  
篠 崎 純子  
篠 崎 純子  
賀 田 純子  
本 田 博太郎

### 第二場 テウイエの家のそと

テウイエ  
ゴルド  
長女 ツァイトル  
次女 ホーデル  
三女 チャツア  
四女 シュプリンツエ  
五女 ビルケ  
学生 パーチャツ  
仕立屋 モーデル

森 繁久彌  
淀 繁久彌  
井 上 孝雄  
横 沢 祐一  
右 上 直也  
安 下 基伸  
中 嶋 英夫  
宮 村 琢磨  
今 村 堅  
服 部 恭一郎

### 第三場 テウイエの家の中

テウイエ  
ゴルド  
長女 ツァイトル  
次女 ホーデル  
三女 チャツア  
四女 シュプリンツエ  
五女 ビルケ  
学生 パーチャツ  
仕立屋 モーデル

森 繁久彌  
淀 繁久彌  
江 崎 英子  
安 崎 良子  
森 山 由利子  
松 岡 由利子  
吉 岡 由利子  
和 泉 純子  
篠 崎 純子  
篠 崎 純子  
賀 田 純子  
本 田 博太郎

### 他の家族たち(安息日の祈り)

今 村 聖洗  
真 島 茂樹  
新 野 武宣  
野 井 明宣  
新 木 章一  
神 戸 仁章  
荒 井 公美子  
森 井 公美子  
優 井 公美子  
井 上 美奈子  
水 谷 千鶴

服 部 孝雄  
永 島 正彦  
大 城 孝 明  
比 呂 誠 一  
水 城 人  
花 優 一  
平 井 美 子  
井 上 口 美 子  
平 井 美 子  
益 井 美 子  
金 井 美 子  
金 井 美 子  
石 井 美 子  
永 井 美 子  
真 井 美 子  
菊 井 美 子

### 日本合唱協会

### 第四場 居酒屋

テウイエ  
肉屋 ラザール  
居酒屋の亭主 モーデル  
本屋 アヴラム  
モールの息子 メンデル  
乞食 ナフム  
帽子屋 ユツセル  
魚売り  
鍛冶屋  
バン屋 ユツツ  
他 村人たち

川 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子  
山 久美子

名高 達郎

## アリアナ

肉体疲労時の  
ビタミンB<sub>1</sub>補給

アリアナA25はすぐれたビタミンB<sub>1</sub>誘導体(フルスルチアミン)に、ビタミンB<sub>2</sub>・B<sub>6</sub>・B<sub>12</sub>を配合しています。(効能)肉体疲労時のビタミンB<sub>1</sub>補給、神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こりの緩和、脚気、病中病後 妊娠授乳期のビタミンB<sub>1</sub>補給

●説明書をよく読んで正しくお使いください。●くわしくは医師、薬剤師、薬局、薬店にご相談ください。 武田薬品工業株式会社 〒541 大阪市東区東修町2-27

しみじみと心のかよう贈り物

どらや  
東京・京都・大阪



—28—









「屋根の上の——」の初演を観て

菊田 一夫

今日病院から外出の許可が出ました。  
明日は帝劇の、屋根の上のヴァイオリン弾き  
を、はじめと観てゆきます。

病院の昼の食事（正午）と夜の食事（五時）との間約四時間の制限外出ですけれど（病院外での食事は一切禁止）  
担当の秋谷先生から「観たいでしょうから許可してあげなすれう。但し、もう大丈夫だな」といって帰ってこなかつたらしいが、大変なことになりましたよ。そして立原福長さんから「見張りを一人つけますよ」。

かくして監視付で観劇と相成りましたが、私は許可が出て、もうと先だとはかり思っていたので……夢かと喜んでるところです。

明日は「屋根の上」が見られるんです。  
そして調子がよければ、もちろん病院で寝泊りの制限外出ですが、そのうちに他の芝居も病院ではいろんな検査があるので、いまだに面会謝絶ですが……だから演劇部と連中とも、劇場の連中とも、そして舞台とも、劇場の客席とも……もう二ヵ月以上も会っていないのです。

明日は、とりあえず「屋根の上のヴァイオリン弾き」の舞台だけ見たら、時間の関係上、誰とも会わずに病院に帰って来なうというのです。

前項の翌日記す。

X

帝国劇場は、病前と同じ顔で私を迎えてくれた。  
この劇場の建設のために私は身体と心がすり減ってしまったに力を使いました。劇場の入口の壁に頬をすりつけたい程のなつかしさでした。  
さて客席の椅子に座って……「屋根の上のヴァイオリン弾きの、私は普通のミュージカルの首がこえた」と、私は普通のミュージカル好きのお客様のように胸をドキドキさせました。  
そして幕があいて、森繁君が出て、踊いて村人大勢（合唱）が出てきたら、胸が何だか知らない熱いものもこみあげてきて、涙がポロポロとこぼれてきました。まだ泣き場でもないのに恥ずかしく、と思つて、押さへようとしたけれど、涙はとまらないのだ。  
自分が力をいれたミュージカルで開幕を見て、改めて、自分生きた返つたのだ。よかった、と、感激したのでしうか。それとも、自分の留守の間、舞台を守つてくれていた森繁君たちの姿がいじらしく涙がこぼれたのでしょうか……私にも判りません。  
さて、かく幕があって、役者が出てきて歌う姿を見たら、馬鹿のように涙がこぼれたのだ。

舞台はいいですね。  
ほんとにいいですね。

「屋根の上のヴァイオリン弾き」初演当時東宝の演劇担当専務であった菊田一夫氏は、企画決定直後より病を得、順天堂病院に入院されていた。

この稿は、昭和42年11月号の演劇雑誌「東宝」に病床より寄稿されたものです。

大丸きものロマン

は  
な

の季節

いま、ふり袖を着る

女性が一生のうちで最も美しい年代に袖を通すものが振り袖。現代では礼装のみならずパーティ、お茶会

趣味の集いに楽しんでいるようになりました。大丸では、伝統の香り終る古典的な振袖にも、最新のこ  
パリ・オートクチュール界の鬼才、ギ・ラロッシュの感性そのままの幻想的な振袖までを取り揃えております。

いま、きものは新しい個性の翼をもちはじめました。

7階きものフロア



DAIMARU  
大丸・東京  
東京/八重洲・電話(03)212-8011・水曜定休

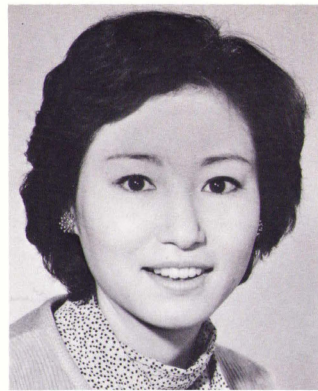




次女ホーデル・森山良子(五月)  
Hodel・RYOKO MORIYAMA



次女ホーデル・安奈 淳(四月)  
Hodel・JUN ANNA



長女ツァイトル・江崎英子  
Tzeitel・EIKO EZAKI



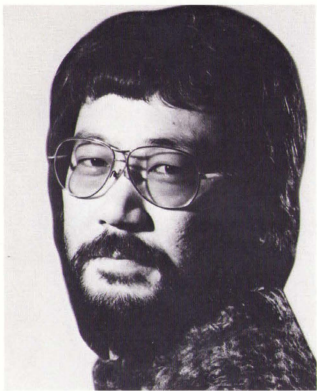
その妻ゴールド・淀 かおる  
Golde・KAORU YODO



テヴィエ・森繁久彌  
Tevye・HISAYA MORISHIGE







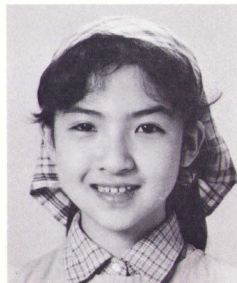
肉屋ラザール・ウォルフ・上條恒彦  
Lazar Wolf・TSUNEHICO KAMIJO



学生パーチック・井上孝雄  
Perchik・TAKAO INOUE



五女ベルケ・林 純子(交互出演)  
Bielke・JUNKO HAYASHI



同上 吉田 きよみ(交互出演)



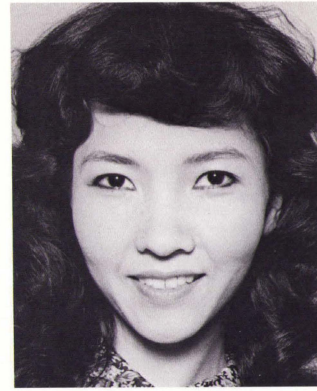
同上 篠崎 祐子(交互出演)



四女シュアリンツェ・和泉ちぬ  
Shprinze・CHINU IZUMI



三女チャヴァ・ジュディ・オング(五月)  
Chava・JUDY ONGG



三女チャヴァ・松岡 由利子(四月)  
Chava・YURIKO MATSUOKA







神津 はづき



森 公美子



水谷 ミチル



花 條 まり



優 ひかり



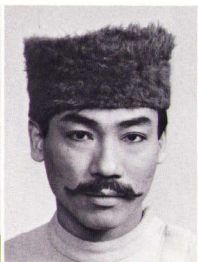
野口 あきら



水 木 誠 一



菊 間 清 二



真 島 茂 樹



永 恵 春 芳



福 田 裕 子



平 田 照 子



乞食ナウム  
右下 恭彦  
Nachum・YASUHIKO MIGISHITA



本屋アヴラム  
宮 琢磨  
Avram・TAKUMA MIYA



モーデルの母シャンドル  
高橋 郁子  
Shandel・IKUKO TAKAHASHI



新 宅 明



服部 恭一郎



今 村 堅 洗



平 松 慎 吾



石 見 榮 英





井上千鶴

神山 仁

宮田五郎

大城孝治



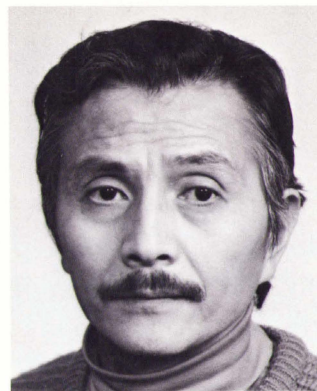
関 輝男

赤城太 郎

叶 年 央

中 嶋 英 夫

榎 戸 喜 章



ヴァイオリン弾き・坂上 道之助  
Fiddler・MICHINOSUKE SAKAGAMI



高 仲 典 子

左 海 裕 子

井 口 美 奈 子



入 江 利 明

新 井 武 宣

比 呂 行 人





フルマセーラ・荒井 洗子  
Fruma Sarah · KOKO ARAI



ツァイトル婆さん・富田 恵子  
Grandma Tzeitel · KEIKO TOMITA



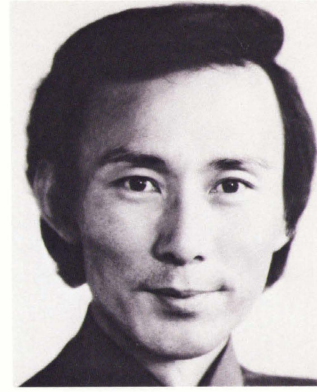
ロシアの青年(テナー)・藤原 章雄  
Russian Tenor soloist · AKIO FUJIWARA



帽子屋ユッセル・安田 伸  
Yussel · SIN YASUDA



居酒屋の亭主モルチャ・横沢 祐一  
Marcha · YUICHI YOKOZAWA



司祭の息子メンデル・三上 直也  
Mendel · NAOYA MIKAMI







司祭・益田喜頓  
Rabbi・KITON MASUDA



巡査部長・須賀不二男  
Constable・FUJIO SUGA



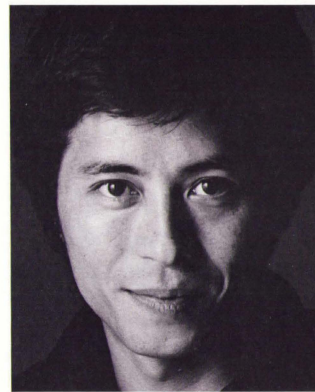
仲人婆さんイエンテ・賀原夏子  
Yente・NATSUKO KAWARA



ロシアの青年フョードカ・暮目 亮(五月)  
Fyedka・RYO HIKIME



ロシアの青年フョードカ・金田 賢一(四月)  
Fyedka・KENICHI KANEDA



仕立屋のモーテル・本田 博太郎  
Motel・HIROTARO HONDA







二十年前のことである。

ミュージカルといえば「マイ・フェア・レディ」の一つ覚えだった私に「フイドラー・オン・ザ・ルーフ」というとびきり面白いのが、今ブロードウェイで流行っている。これは森繁（以下呼び捨て御免なさい）の役柄にぴたりだと思っただがと話してくれたのは当時ソニーの副社長でニューヨークをいつも往復していた盛田君（現ソニー会長）だった。

彼はえらく感激して、これを始めて見た晩にこれをぜひ日本で上演したい、しかも森繁さんだと、当時東宝の会長だった清水雅さんに直接手紙を書いた。

その後数年たつて繁さんの「屋根の上のヴァイオリン弾き」にありついた。見て始めて盛田君が繁さんにビタリといった意味がよくよく分った。

しかし、繁さんはどんな売れっ子になつて行くのに「屋根の上の」はそんなに話題にならないのは惜しいことだと思つていた。ところが昭和五十年代になると急に火がついたように燃え盛りが始めた。以来、文字通り日本の津々浦々までその名は行き渡り、この公演が終わると八百十五回になるということである。風俗や習慣もまるで違うユダヤ人の話が老いも若きもまた都会、田舎、男女の区別なく、百五十万人もの人の魂をつかんでよくもこれだけ泣かせ、笑わせた繁さんの「屋根の上の」の秘密とは一体なんなの

だろう。

戦後の日本は愛国心や道徳心をはぎとられ、世界に誇るべきうるわしい家族制度や義理人情を抹殺させられ、その上おしきせの偽民主主義に振り廻されて来た。どうもそういう手合いの民主主義になじめない人種が沢山残つていて「屋根の上の」を見て思わずこれだと思つたのが「この秘密ではあるまいか。全く違うユダヤ人の話ではあるが、家族主義、近隣との付き合い、何か戦前の「向う三軒両隣り」の義理人情への郷愁が老人共を動かし、若者達も本能に近い感情を沸き立たせたのに違いない。

しかし、本質は話の筋ではなく、出演者の心が観客一人一人の心に伝わるという映画とは違った演劇の特質がうまくあらわれた結果であらう。

八百回にも及ぶ公演で繁さんは原作に描かれた「テヴィエ」以上の「テヴィエ」になつてしまひ、その心が伝わつて観客の感動になつたのである。文字通り「テヴィエ」家の家長になつて切つてしまつてゐる御本人は演劇をしてゐる意識は全く持っていないのではないだろうか。家長であり、ヨットの前長であり、一座の座長であり、繁さんはどこまでが役者でどこまでが森繁君であるのか区別なく、文字通り行つてゐるというしかないだろう。八百回の「屋根の上の」の公演が森繁をテヴィエにしてしまつただけでな

く、一くせも二くせも個性のある一座のスタッフを、おやじがその気ならと燃え

出さずにはいられなくしてしまつたのが繁さんの人柄というものである。ほんとうに涙を流す感激を与えるのは演技ではなく、本物の彼自身そのものだからなのである。

繁さんは私にとつてどうも他人のような気がしない。色々の理由があるが二人共少年時代関西で育つたこと。私は昭和八年に早稲田を出てすぐ飛び込んだのがP・C・L、今の東宝の前身のトーキー会社。彼は早稲田に五年も通ひ（教室であるかどうかは疑問）卒業する前に退学してもぐり込んだのが東宝。

彼は卒業してないのに典型的な早稲田っ子。母校創立百年祝典に「屋根の上の」を引っさげて大隈講堂へ何十年振りかで里帰りをした。近頃の若者がどれだけ分ってくれるだろうか、との彼の危機に反して、学生達の反響は熱狂的で鋭敏で彼の方が煽られようだったと述べている。終演後大隈庭園で昔のように学生に取りかこまれ、都の西北とエールに涙がとまらなかつたのは彼が本物の早稲田

っ子である証拠だろう。

かつて早稲田の後輩で彼も私も親しくしてゐた友人が大阪で病気が重いということに忙しいうちを幾度も私に電話をしてくれた。この人はいつたに亡くなつたが、彼の友達思いには頭が下る。

お互いいい年をして好奇心のかたまり。玩具や模型に一方ならぬ関心を持つてゐるのも共通点。また二人とも庭中線路を引いて、おもちゃの蒸気機関車を走らせようという夢をはたせないでゐることを「こぼれ松葉」（森繁久彌の五十年で始めて知つて「ニヤッ」としたものだ。人間森繁を語り出したにすぎない。どんなつむじ曲りでも、引つ張り込まないではすまない彼の偉大な庶民性粉々の魅力、持ち味、人情、感激性……）

これからも彼の人間性は芝居の新しい境地をつくり出し、一座をそれに巻き込みお客さんまで道連れにして止まないだろう。その役に成り切るのだから、戸籍年齢とは関係ない。いつまでも若さと情熱をもやし続けてほしい。それが日本人の繁さんへの期待なのである。





# 「屋根の上のヴァイオリン弾き」について

倉橋 健



「屋根の上のヴァイオリン弾き」は、ロシア系のユダヤ人作家シヨラム・アレイクムの一連の小説「乳売りテヴィエ」「デヴィエの娘たち」等を原作にしたものである。シヨラム・アレイクムは、一八五九年にウクライナに生まれ、一八八三年から作家活動にはいった。一九〇五年、この作品であつかわれてゐるようなプログラム（ユダヤ人迫害）にあり、家族と共にロシアを去り、スイスをへてアメリカに渡り、一九一六年にコペンハーゲンで死んだ。本名はシヨラム・ノフモヴィチ・ラビノーヴィチといひ、テヴィエのような貧しい庶民の生活をユーモアとリリシズムをもつて描いた小説が多く、ゴリキイもこれを「哀愁にみちた心をつ」作品として評価している。



＜イギリス＞



＜イスラエル＞

こういう作品が原作であるからには「屋根の上の」は、ミュージカルとしては異色作である。これまでにも「オクラホマ」のように、農民の生活をあつかったミュージカルがないわけではないが、「オクラホマ」では物語の展開や衣裳、装置等にミュージカルのなかなかなさおいがあらはれてゐた。しかし「屋根の上」では、男はみんなシゲをはやし、女たちは粗末な農民の服装をしてゐる。どの点から見ても、ミュージカルのなかなかなさはない。しかもストリーは、帝政時代のロシアにおけるユダヤ人への迫害を題材にした暗いものである。ニューヨークは、冗談にニューヨークと呼ばれるほど、ユダヤ人の多いところである。しかしアメリカで生れてアメリカに育つたユダヤ人たちの多くにとっては、半世紀以上も前に自分たちの父祖がもつてゐた風俗や習慣や宗教観や物の考えかたは、もはや身近なものではありえ

ない。そういういろいろな条件を考慮して、アメリカの業界誌「ヴァライアティ」は、「屋根の上」のニューヨーク初演に旅立つ地方公演のうちにこの作品は大ヒットにはならない。うまくいって中程度の成功である」と予測した。ところが一九六四年九月二十二日にブロードウェイのインペリアル劇場でふたをあけると、予想に反して、空前のヒットになり、八年間三三四回のロング・ランを記録した。

「屋根の上のヴァイオリン弾き」は、当然のことながら、数多くの賞をうけた。作品としては一九六四・六五年度のニューヨーク劇評家賞とトニー賞の最優秀ミュージカルにえられ、またトニー賞のミュージカル部門でテヴィエを演じたゼロ・モステルが主演賞を、妻のゴールドを演じたマリア・カニエロワが女優助演賞を、ハロルド・プリンスが製作賞を、ジョゼフ・スタインが脚本賞を、ジェリー・ボックが作曲賞を、シェルドン・ハーニックが作詞賞を、ジェローム・ロビンズが振付賞をあたへられた。

「屋根の上」は世界の多くの国々でも上演され、好評を博した。イギリス、フランス、スイス、オーストリア、ベルギー、デンマーク、オランダ、ノールウェイ、フィンランド、スウェーデン、西ドイツ、東ドイツ、ポランド、チェコスロバキア、アイスランド、トルコ、イスラエル、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、南米諸国、日本などである。

オーストリアでは、ベートーベンのオペラ「フィデリオ」が初演された由緒あるテアター・アン・デア・ウィーンで上演され、音楽



＜フランス＞



＜東ベルリン＞



＜アメリカ＞

にはうるさいウィーン子から熱狂的喝采をあびた。東ドイツは、オペラの演出家として世界的に有名なワルター・フェルゼンシュタインが、その本拠であるコミッッシュ・オペラ劇場で上演した。八カ月の稽古をかかされて初日をあけたところ、拍手とカーテンコールが二十分以上続いたという。

一九六七年の日本初演については、ニューヨーク・タイムズ紙は、「そのユーモアは的確に理解され、しるべきところにくると大きな帝国劇場は笑いのうずき包まれた」とつた。でも、もともと、「カ所だけ、アメリカではドツと笑いがきて、日本では反応のないところがある。それは大詰近くで、ビルケとシュプリンツェが「汽車にも乗るし船にも乗るよ……」とほしやきまわると、ゴールドが「おカじゃなんだよ」と叱る場面がある。アメリカの子供の野放図さに対する皮肉が逆に見えるわけで、日本でそれが伝わらないのはかたがたない。ただ、かりにテヴィエ一家がアメリカではなく、日本に亡命したとして、「ここはまだ日本じゃないんだよ」というセリフが出たとき、それを笑いで受けとめるセリフがあるかどうか。

シヨラム・アレイクムはユダヤ文学のマーク・トウェインと呼ばれてゐる。ジョゼフ・スタインはこのアレイクムの作品のなかのユーモアとペイソス、人物と背景をもとにして新しいミュージカル台本を書いた。たとえば原作のテヴィエは、おとなしい、受け身な男である。受け身な人物は、ドラマの主人公にはむかない。そこでスタインはテヴィエを、ウィットがあり、行動性もある、庶民として生きる知恵をもつた魅力的な人物にしたのである。また原作では、ユダヤ人に対する迫害は前面に出てこない。これを多数民族の少数民族に対する敵意、暴力、差別のもとと見え強調し、現代的意味を加えたのも、スタインである。

八年のロング・ランになると、配役も当然途中で変わるが、強く印象に残つてゐるのはゼロ・モステル（一九五一—一九七七）のテヴィエである。

モステルは、ミュージカルばかりではなく、ヨネスコの「屋」や、ベケットの「ゴドーを待ちながら」でも演技賞を得ている俳優である。彼はアド・リブがうまい役者といわれているが、モステル自身はこれを否定する。そして、あるインタビューのなかでつぎのように語つてゐる。

「私は舞台上でアド・リブがうまいとよくいわれるが、あれはアド・リブとは違ふ。みなさんは、自発的な自然な行動をアド・リブとまちがえてゐなさるのだ。すぐれた俳優は、同じモーツァルトのソナタを、演奏するたびごとに、楽譜の限界内で、全面的に再創造しなければならぬ。彼はメトロノームではない。俳優にも完全な自由はない。劇中のせりふを自分の氣まぐれで変えることはできない。しかし、毎晩自分の役を再創造するにあつては、毎晩自分の想像力をはたらかせなければならない。毎晩自分が真実を語つてゐると感じることが必要なのだ」

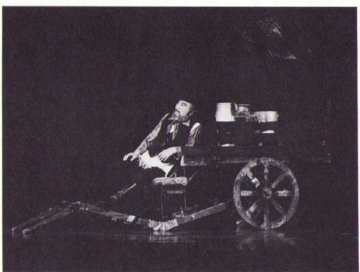
こういう基本的なことばにきびい態度から（自発的に）／＼自然に／＼まれるアド・リブだから、彼のアド・リブは絶妙なものである。こんなエピソードがある。

「屋根の上」に出演中、レールにのつてきちんと動いてくるとははずの家のセットが、バラバラになつて所定の位置におさまらないことがあつた。するとモステルは即座に神様に向かつて呼びかけ「わたしが家主に家賃を払わぬかといつて、なにもおこらしない方にはおよびますまい」と言つた。道具員が一所けんめい、直そうとすると、まだ直らない。そこで彼はさらに「ああ神様、もしあなたに立派な神様なら、どうぞわたしの家をちゃんと直してください」とつづけた。そのときにまで道具員はやつと仕事をしておつた。



# 「屋根の上のヴァイオリン弾き」のヴァイオリン弾きたち

演劇評論家 石崎 勝久



この二月、ほんの短期間だが、またブロードウェイに行った。ミュージカルを観るためである。昨秋行ったときは「キヤッツ」と「ナイン」だけしか観られず、やたらに心が残ったから、その「埋め合せ」のために出かけたようなものである。「キヤッツ」の二度目の観劇のほか、ビクター・ブルック演出のミュージカル「カルメン」、ヒット芝居で映画にもなった「Mrs.レディ・Mrs.マダム」のミュージカル化「ラージ・オ・フォール」、マイケル・ベネット振付け・演出の「ゴラス・ライン」、ツイギーとトミー・チュインの「マイワシ・&・オンリー」、チャ・レベラとライザ・ミネリ主演の新作「ザ・リンク」……さすがに、どれもこれも面白かった。ひと頃、不振を伝えられたブロードウェイだが、前衛ミュージカルの「カルメン」を除けば、どれも超満員の客でにぎわっている。四〇ドルも四五ドル九千五百円〜一万六千五百円という値段は、日本人の感覚では高い入場料と思うのだが、それでも満員なのである。ブロードウェイは、それがすべてミュージカルを支え続けるアメリカ人は、さすがにいたたかである。ブロードウェイのミュージカルは、さすがに本場というか、見事に地につけているというか、前衛派の「カルメン」を含めて、すべて「愉しさ」にみちあふれている。と同時に、さわやかな感動にみちまわっている。よく笑わせ、そしてよく泣かせてくれるのだ。ゲイボリーの世界を扱った「ラージ・オ・フォール」では腹をかかえて笑ったし、「キヤッツ」

「ゴラス・ライン」は感動の涙を流させてくれた。

ブロードウェイの舞台は、地についた作品の強さを改めてはくりに教えてくれたと同時に、なぜか森繁主演の「屋根の上のヴァイオリン弾き」を思い出させた。そういえば、日本での翻訳ミュージカルでは「いっしょに地についた」感動があるのは「屋根の上のヴァイオリン弾き」だったな、というふうな。

「屋根の上のヴァイオリン弾き」が日本で最初に上演されたのは一九六七年秋のことである。六三年秋の東宝劇場「マイ・フェア・レディ」にはじまる東宝の翻訳ミュージカル路線は、まだその口火を切ったばかりだったが、ミュージカルに賭ける菊田一夫・当時東宝専務・故人の情熱は、病いの中に燃えさかっていた。菊田は六六年に再出場したばかりの帝劇に、どんなミュージカルがふさわしいかと、考え続けていた。帝劇という華やかな劇場にふさわしいミュージカル。当時ブロードウェイで話題をさらっているのは「ハロー・ドーリー」と「屋根の上のヴァイオリン弾き」だが、「ハロー・ドーリー」は、すでに六五年に東宝劇場が、本場のアメリカからスタッフ、キャストを呼び寄せて公演をもっている。残るのは「屋根の上のヴァイオリン弾き」だけ。これで行こう。菊田の決断は下った。

もともと、その当時の誰もが、「屋根の上のヴァイオリン弾き」が、こんなにも大ヒットする作品になろうとは、夢にも考えはしなかった。

つた。ぼくはこの六七年秋の初演から十数回は、「屋根の上のヴァイオリン弾き」を観ている。帝劇公演はもちろん毎回観ているし、配役が変わる程度に見直している。名古屋の中日劇場でも二度観ている。大阪の梅田コマ劇場でも二度観ている。沖縄の那覇市民会館でも、仙台の宮城県民会館でも、観ている。十数回ではきかず、二十回を越えているかも知れない。

六七年の初演時は、前にも書いたように、日本に翻訳ミュージカルの時代がやって来たばかりだった。初演の舞台の記憶は、いまはすっかり薄れかけているが、ただ、演劇界がこの新しい舞台芸術に向けて、全体的に燃えあがっていたという印象だけは強く残っている。二〇年前、人びとは、ミュージカルを日本に定着させるべく、燃えに燃えたのである。だが、一九七五年二月の日生劇場で再演のころからは、日本人はこの新しい舞台芸術をすっかり自分のものにしてはじめて、ぼくはこの再演の舞台を今でもありありと思い出すことができる。ゴールドを上月晃がやり、ツイイルを淀かおるがやり、モーデル倍賀千恵子、チャップ木の実ナナ、ホルター津波臣章、パリチック村井国夫、ラザール谷登、フルマセトラ流けい子の、あの舞台だ。さわやかな感動がそこにあった。一陽は昇りまた沈むの名曲に涙した最初だった。

この三月、中日劇場で、またこの舞台を観た。終ってから、森繁・益田喜頓・淀かおる、安奈淳、上條恒彦らと懇談の機会があった。翻訳ミュージカル二〇年の歴史が、舞台を変え、観客を変えてきたことが、その座で話題になった。演じ手の側も、観客の側も、翻訳ミュージカルの文脈を感じ、それを肉体化するに、時間がかかったのである。ともあれ、森繁が「屋根の上のヴァイオリン弾き」を、ぐいと自分の手許に引き寄せ、テヴィエの役を、自らの感性で自在に「弾き

じめた」のは、まさに七五年の再演からだつた。森繁が自在に役を弾きこなせば、ほかの出演者たちも、これにつられて、自らのヴァイオリンを、アンサンブルの中で、じつじうまく弾きはじめ、ここに、感動のミュージカル・日本版「屋根の上のヴァイオリン弾き」が完成した。

一九七六年の中日劇場公演で、カーテンコールにつぐカーテンコールで、涙の森繁を立往生させた熱烈観客の支持は、地方から地方へと伝わり、いまや「屋根の上のヴァイオリン弾き」は、国民的ミュージカルになった。また観客もある。翻訳ミュージカルでありながら、ほとんどの人が、翻訳であることすら忘れていて、「屋根の上のヴァイオリン弾き」は、こうして日本の土壌の中に、がっしりと根づいた。まるで、日本で生まれ育ったミュージカルであるように。

一昨年の帝劇六か月公演に続くこんどの公演は、三月の中日劇場にはじつしたが、この公演前に三十日間の稽古が行われたという。森繁にいわせると「このミュージカルには、新しく稽古をはじめめる毎に、新しい発見がある」そうだが、観る側にとってもそれは同様だ。公演の都度、新しい発見がある。三月の中日公演では、三女チャップの存在がくつきりと際立つような演出。松岡由利子が今までいっしょに、いい演技をみせた。本田博太郎、金田賢一たちが初めてこの舞台に参加して、新鮮な感覚を与えた。時どきの配役変更は、新しい発見のいい手引になる。五月になるとホール版が森山良子、チャップがジュディ・オング、フョードルが篠田亮になる。彼らもまた、新しい魅力の発見に、おおいに役立ってくるのではない。

森繁テヴィエを中心にするの作品の「絶妙な弾き手たち」が、奏でる人間愛の感動は、観客の心の中に永遠に不滅である。国民的ミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」を、あと何度か観たい。





親愛なる森繁さま

「屋根の上のヴァイオリン弾き」の作曲者として、心からのお祝いを貴方にお送りしたいと思います。

「ヴァイオリン弾き」が日本に於けるアメリカミュージカルの上演記録のレコードを樹立し、しかも、そのすべての公演のテヴィエが貴方によって演じられたことを私は今知らされました。

この輝かしい成果は、もちろん一切があなたに帰すべきであり、私共は貴方のこの輝かしい成果のお手伝いが出来たことを名譽とするものです。

プフワッ!

そして

人生に乾杯!

心をこめて

ジェリー・ボック



Jerry Bock

December 4, 1978

Dear Mr. Morishige,  
As the composer of "Fiddler On The Roof" I wish to offer you my heartiest congratulations. I have just learned that Fiddler will hold the record for the most performances of any American musical presented in Japan, and that you have played Tevye in every performance. Your remarkable achievement is, of course, an honor to you. It is also an honor to us for being associated with such an achievement.

Bravo! and

To Life!

Most sincerely,

Jerry Bock

陽は昇りまた沈む  
Sunrise Sunset

いつも おんぶしてた  
かわい い 小さな子  
いつ か大きくなつた  
二人  
こんな に きれいになつて  
立派になつたのか  
昨日までは 小さな子が  
陽は昇り また沈み  
時うつる 朝が来れば  
花も すぐ開く  
陽は昇り また沈み  
時うつる 悲しみを  
よるこびる 流れてゆく

口には出して 言えない  
今日の よろこびよ  
やさしく手をとり合つて  
いつまでも  
しあわせそうな二人  
かたく 結ばれて  
いつの日にか 私たちも  
陽は昇り また沈み  
時うつる 悲しみを  
よるこびる 流れてゆく

□伝統の歌

村人たち

「歌いながら登場」  
「しきたり! しきたり!」  
「しきたり! しきたり!」  
「しきたり! しきたり!」

テヴィエと

「生活を一手に引き受け  
汗を流し働いて  
女房・娘たちを  
養うのは誰?

全 員

「それは パパ  
しきたり!  
それは パパ!  
しきたり!

ゴールデと

「みんなが休めるように  
きれいで静かな  
家庭をこしらえるのは  
誰でしょう?

全 員

「それは ママ!  
しきたり!  
それは ママ!  
しきたり!

息子たち

「三つで字をよんで  
十歳で商売  
花嫁がきれいな  
いいな

全 員

「それは息子!  
しきたり!  
それは息子!  
しきたり!

娘たち

「針仕事はお母さんに  
お嬢さんなら  
お父さんなら

全 員

「それは娘!  
しきたり!  
それは娘!  
しきたり!

(父親たち)

「生活を一手に引き受け  
汗を流し働いて  
静かな  
家庭を  
こしらえるのは  
誰でしょう?

誰?

「ママよ  
しきたり!  
それは  
ママ!  
しきたり!

しきたり!

□もし金持なら

テヴィエ

「金持なら  
ダド・デイド・ダド  
デイ・デイ・ダド  
デイ・ダド・ドウム  
朝から夜まで  
遊んで暮らす

金持なら  
ダド・デイド・ダド  
デイ・デイ・ダド  
デイ・ダド・ドウム  
百金に暮らすのさ  
ダド・デイド・ダド  
デイ・デイ・ダド  
デイ・ダド・ドウム  
七面鳥に驚鳥にアヒル  
七面鳥をひくように  
こころ

金持なら  
ダド・デイド・ダド  
デイ・デイ・ダド  
デイ・ダド・ドウム  
コックコー コックコー  
金持の家だ  
やかましく鳴かせましよう  
「溜息をつく」

「俺の女房は  
みごとに太つた手を上げて  
下男に指図する  
歩く姿は 孔雀のように  
お、しあわせな顔  
大金持の奥様さ  
俺の意見はだれもが求め  
このテヴィエの意見は聞く  
金持とはすばらしい!!  
ボア・ボア・ボア・ボア  
ボア・ボア・ボア・ボア

「横車を押しても  
ちつともかまわない  
思うとうりにやるんだぜ  
聖書と首つ引き  
毎日お祈りする  
えらい学者と  
話し合つて  
これこそすばらしい  
(ため息をつく)

「金持なら  
ダド・デイド・ダド  
デイ・デイ・ダド  
デイ・ダド・ドウム  
朝から夜まで  
遊んで暮らす  
金持なら  
ダド・デイド・ダド  
デイ・デイ・ダド  
デイ・ダド・ドウム  
今のはだめは  
神様がくれた  
金持ならば  
もし!! 金持ならば



©Sun-beam Music, Inc.  
The Rights For Japan Assigned Intersong K. K.  
日本音楽著作権協会 (出) 許諾番号第8361634-301号







## オリジナル・スタッフの紹介

ジェローム・ロバンス  
Jerome Robbins



アメリカのミュージカル史上最も精力的に演出、振付家として活躍しているのが、ジェローム・ロビンズである。

『ウェストサイド物語』『ファンシー・フリー』『オン・ザ・タフ』『ジ・ブリー』『ビター・ハート』『マン・オブ・ストリートの男』など数多くの作品で彼は生き生きとしたアメリカの演劇芸術を創作した。中でも『ウェストサイド物語』における演出と振付は、世間を驚倒させた。映画の『エース・オン・ザ・ウィング』を監督したり、ロジャースとハーマースタイン二世の『王様と私』の振付もしている。

ハロルド・プリンス  
Harold Prince



デヴィッド・メリックと並ぶブロードウェイの逸材。プロデューサー兼演出家。

ニューヨーク生れのドイツ系ユダヤ人。ペンシルベニア大学存学中、その演劇活動をジョージ・アボットに着目され、卒業後、若手のテレビ活動を経て朝鮮戦争に応召。除隊後は舞台監督を経て、やがてプロデューサーとして頭角をあらわし、『パジ

シヨラム・アレハム  
Sholom Alechem



シヨラム・アレハムは、近代のユダヤ人著作家の中で一番愛されている作家である。彼は人物を描写するのに、優れた天分の持ち主であった。

自分たちの民族の考え、心、英知そしてそれに増して、彼ら特有のコトバを完全にとらえた。『古い国』と『デヴィエの娘たち』は古典で、その中への最も愛されている作家の最高の代表作物語がいっつか集められている。そこに登場する人物は

最初は演劇志望だったが、『グレート・レディー』などのミュージカルで踊り手として出発するのが始まりである。やがてバレエ団のソロ・ダンサー兼、振付師となり『ファンシー・フリー』の振付をして一躍名を成し、後にニューヨーク・シティ・バレエの多くのバレエを作った。

一九五七年、自分のバレエ団を結成、『パレウサ』と呼ぶ。

一九六四年フランス政府からレジオン・ドヌール勲章を与えられた。

我が国には日生劇場『ウェストサイド物語』公演のため一九六四年十一月下旬来日している。

ヤマゲート『ウェストサイド物語』、『屋根の上のヴァイオリン弾き』等、ミュージカル史上に不朽の名作を数々ものにした。

一九六二年頃から演出家としても活躍し、『カンパニー』『キヤパレー』『リトル・ナイツ』『ミュージック』等で最優秀演出賞を獲得した。

最新作は『スウィーニー・ドット』である。

底抜けに明るい人間、徹底的な人間、歪んだのや、非常識なのや、悲劇的なものや、またすぶる愛すべき人物が出てくる。これらの物語は、いままではいまいまいと笑わせるだろうが、同時に深く心に触れるものがある。何故だろうか？ それはシヨラム・アレハムは偉大な作家である証拠で、彼の興味津々たるユイモアは人々の胸に染み渡る例の中に、愛の真心を訴えるものがあつたから

ジョセフ・スタイン  
Joseph Stein

ジェリー・ボックと  
シェルドン・ハーニツク  
Jerry Bock and  
Sheldon Harnick



『屋根の上のヴァイオリン弾き』は舞台用に彼の書いた八番目の主要作品である。他に『エンター・ラッフィン』『ミスター・ワンダフル』『ザ・ボデー・ビュティフル』それにニューヨークやロンドンでヒットした『ブレイン・アンド・ファンシー』がある。テレビには、ミッド・

ジェリー・ボック、シェルドン・ハーニツク、ハロルド・プリンスの大成の共作はニューヨーク賞受賞作品の『フィオロー』に始まり、『テンダーロイン』『ミスター・ラプス・ミ』とつづいた。

『屋根の上のヴァイオリン弾き』と共にブロードウェイで大ヒットした『アプル・トリー』はボックとハーニツクが組んだ作品である。

ジェリー・ボックの最初の全作曲は『ミスター・ワンダフル』で、サミー・デヴィス・ジュニアが主演し、

### サミー・ベイス 〈振付担当作品〉

映画…『屋根の上のヴァイオリン弾き』『ゴッドスベル』

演劇…『カンタベリー物語』『ニューヨーク・オニール劇場(ニューヨーク)』

『カンタベリー物語』『フロドゥー』『一九六八(六九)の振付でトニー賞(最優秀振付師として)候補。』

演出・振付担当作品

演劇…『カンタベリー物語』『ハー・マジェステイス劇場(オーストラリア・シドニー)』『ゴッドスベル』『ブレイボックス劇場(オーストラリア・メルボルン)』『ツイ・ジェントルマン・オブ・

シーザ、フィル・シルバース、ビクター・ボリジ、デビー・レイノルズ等のワンマン・ショーのものを書いた。

彼の演劇界での成功は、レビュー・スタッフから始まって芝居に移った。

その中には『ワー・クロウズ・フォート・コンフォート』というヒット・ソングが含まれている。

シェルドン・ハーニツクはヴァイオリン演奏者であったが、詞を書き始め、ジェリー・ボックとミュージカル『ザ・ボデー・ビュティフル』で組む以前に成功していたが、このミュージカルで、ハロルド・プリンスに二人の才能が見出された。

また、ネルソンについてミュージカル『トワラアルガル』でも一緒に仕事をしている。

ペロナ』『ヒズ・マジェステイス劇場(オーストラリア・メルボルン)』『ビリン』『ヒズ・マジェステイス劇場(オーストラリア・メルボルン)』

『屋根の上のヴァイオリン弾き』

『マノロ・フアラベラス劇場(メキシコ・シディ)』

『屋根の上のヴァイオリン弾き』

大劇場(宝塚)

『ウェストサイド物語』

帝国劇場(東京)

『FUNKIE』(ア王のミュージカル版)

シラマ劇場(ニューヨーク)

『FUNKIE HERA』(若い未亡人、原作ゾルバ・ザ・タリク)より、三十四一番街劇場(ニューヨーク)

大串蒲焼

神田 大串蒲焼

●神田店  
神田 須田町 1 - 24  
Tel (251) 1506 年中無休  
●日比谷店  
丸の内帝国劇場地下二階食堂街  
Tel (211) 4939 年中無休

上品な甘さでつつんだ自慢の味。

親類にレジャーのお供に、各種ご贈答にご利用下さい。

花川の甘納豆

花川本舗  
TEL (03) 371-8111





# 何事にも

しきたりがある



この劇の主人公デヴィエのいう、独自のなかにこのアツカでは、何事にも  
しきたりがある。一板のくいかた、眠りかた、着物の着かた、たてえ、いっも  
頭巾をかぶり、礼拝用の肩掛けをしよう。  
ユダヤの人たちは古い、旧約聖書を基に人間が生活する上に必要で、規則の織  
り込まれたタルムード(TALMUD)と呼ばれるテキストを作った。彼らのしきた  
りはこのタルムードから出てくるものである。彼らの社会秩序や、教育、健康、  
祈り、衣服、結婚などの生活環境はこのタルムードによって保たれ、それらの中で、  
伝統は厳然として歴史とともに培われてきた。

## 食事の方法

家族が一緒に食事をする金曜日の夜には、  
主婦はまず彼女のその日のメニューに従って  
テーブルのセッティングを行う。ハラ(HALLAH)  
と名づけられたパンは主人に近い所に置かれ、  
カバーがかけられる。そしてすべて食卓の用  
意が出来たら、ロウソクに火をつけて家族を  
食堂に招き入れる。ワイン・グラスは客人の  
食膳に置かれ、そのワイン・グラスは、男の  
分は女より立派な彫刻をほどこしたものである  
が、最初の一杯のキッドゥシュ(KIDUSH)  
と呼ばれるワイン・グラスは主人・息子  
と娘、最後に主婦という順序で回し、食前  
のお祈りを捧げる。  
パンは卵大くらいの大きさにちぎって各々  
の食膳に置く。その傍に塩が置いてあって、  
それをつけながら食べる。この金曜日の夜は、  
動物・豚はもつての外、肉及び動物が振  
られたタルカ、あるいは油、バター等一切禁  
じられている。従ってバターなどはつけられ  
ない。テーブル上の食物に対する観念は、  
われわれ日本人の持つ観念と違い、一種の神  
棚に供えられたものと考えられている。食事  
の時はみだりに各人が話をしてはならない。

## 眠りかた

靴・靴下・手袋その他左右、組で身につけ  
たものを脱ぐ時は、左の分からという。爪切り  
も左からする。この左から先というところは  
心臓が左にあるからである。心臓は感情のも  
とであるというふうな考えられ、寝る時も左  
側から先に寝る。われわれのように仰向けや  
寝返りを打って腹は左になって寝てしまふよ  
うなことはしない。そして適宜、左側から逆  
に右側へと静かに寝返る。これは健康に一番  
いい方向であるとも信じられているからそう  
だ。

## 人さし指と中指を軽く口のあたりに当てる

ユダヤ人の人たちはときどきこういう仕草  
をすることがある。これは自分の人さし指と  
中指にピエラ、ピエツと二回くり返して、  
つばをかけるような仕草で、アイ・ア  
ラ(ENARA)即ち、悪魔の目に対して行う  
ものである。これは何か自分に都合が悪い時  
になるというような仕草である。はらしたま  
え、というわけである。ユダヤ人たちはは  
り最も悪い仕草であると考えられているよ  
うだ。

## 結婚式

結婚式には家族がキャノピー(CANOPY)  
を支えて、その下に花婿・花嫁が並ぶ。まず  
花嫁が左が花婿さんの周りを七回まわす。  
一番初めに花婿がラビから祝福されて、注いで  
もらったワインを飲み、その後花嫁が飲む。  
花婿はワインをさかさまにして自分の肩許に  
置き、マーザルトープ(MAZEL TOV)とい  
ってコップを割る。なぜ割るかというと、そ  
の昔、ローマ帝国のティウスによってユダ  
ヤの神殿がこわされた屈辱をユダヤ教を信  
ずる者として、いかに幸福な時でも、絶対に  
忘れないようにと戒めのためである。  
現在七十歳の人たちでもこの劇の背景の時  
代には生れたばかりであり、彼らの父母が  
この劇に見ればよく、いかにタルムード  
をしっかりと抱いて異教徒からの迫害ある  
は同教徒同士の間で歩いて来たか、そ  
の感情の中に無形の印象として残っているが、  
これらの古いしきたりは職業的な地位に  
人とは別として、一般人には大事典七冊分ぐ  
らいものが常に頭にあって、また時  
代の流れに従ってその意味がモダン化し  
ていくようであり、またそのものは人間の  
骨格のように退化し、いまやお伽話的な  
ものもあるようである。



表紙・画

「屋根の上のヴァイオリン弾き」

生 沢 朗



演劇人として五十年。  
その芸歴とともに、  
人間森繁の  
すべてを綴る。

森繁久彌著  
**こぼれ松葉** 森繁久彌の五十年  
B5判・208ページ／カセットテープ45分1巻・B6判小冊子24ページ付 好評発売中定価5,000円＋税  
森繁久彌芸能生活五十年を機会に、それぞれの時代に関わりをもった、友人、演劇人、評論家、ジャーナ  
リストとの出会い、さらに家族や趣味のヨット、釣りのことなど、人間・森繁の魅力のすべてを記録。

〒150 東京都渋谷区宇田川町41-1 振替東京1 49701 ☎03-644-7311代表

日本放送出版協会

大島満治の  
美容室

Alexandre.

アレキサンダー  
**Alexandre.**  
素敵なサロンでおしゃれを

丸の内帝劇地下2F AM11:00~PM9:00 (年中無休)  
木曜日のみ AM10:00~PM6:00 PHONE 03-201-3865



# 「屋根の上のヴァイオリン弾き」に寄せられた手紙

このミュージカルほど、上演のたびに観客のみならず、熱いメッセージが数多く寄せられる舞台は他にありません。出演者はその言葉に動まれ、つぎの公演に全力を傾けます。舞台は観客とともにあるのです。

ここに、そのお手紙を紹介させていただきます。字数の都合で一部省略してあります。ありがとうございました。

拝啓 森繁久彌様 七月二十一日の「屋根の上のヴァイオリン弾き」をみていただき、感動いまださめやらず、お便りする次第です。

私は、新潟県の片田舎に住む、いがい、一教師です。毎日、むき苦しい男生徒や、つっぱり女生徒を相手に悪戦苦闘しています。家庭にあつては、これ以上手抜きできない程の手抜き主婦でありながら、女お家の中をバタバタと駆け回り回っております。

そこへ東京、出張するチャンスがやってきました。私の欣喜奮躍下りるを、ご想像下さいませ。二児の子持ちで、ローン返済に追われている地方の一主婦が「東京サ行く」ということは、なかなか簡単なことではないのです。

「必ず時間うみ出して、良いものをみてこよう」これが、私のひそかな、しじり断固とした思いでした。そして迷わず、帝国劇場へ行ったのです。

最初、私は頂天でした。夫や子供と離れて一人だからこそ、この幸せも満喫できるノ、と。けれども、次第に私は「隅席に夫がいたらなあ」と思うようになりました。そして、ゴールドが「長い年月と一緒に、喜びや悲しみを分けあつて来た二人、これがほんとうの愛」と歌った時、心から共感しました。苦業と共にしてこそ、心は通合のようです。テヴィエ、あなたの方のように、私たちも、けんかをしたり、笑つたり、慰めあつたりしつ、良い夫婦になつていきたいと思ひます。

父の姿を重ねて、私は今夜、初めて「屋根の上のヴァイオリン弾き」を観ました。初めて貴方のテヴィエに会いました。そしてもう再会を、心待ちにしています。

何を言いたいのでしょうか。私は幸運にも最前列に席を構え皆様の「挙手一投足に目を奪われていました。私が心魅かれたのは、テヴィエがチャップを思い、娘がそつていた昔を懐しんで歌った「ヤヴァア」です。愛しい娘を手離し、思ひ出に涙するテヴィエに、父の姿を重ねたのは、私の日頃の親不孝でしようか。親とは哀しいものなのです。決して子には勝てない。子は知らぬ間に親をなまじ、生きてゆくのでしようか。人間とはしたたかなものだと思ひます。テヴィエやゴールドや他の人々に私が共感するのは人種など関係のない、人間に共通したそのしたたかさ、強さ、そして哀しき故なのでしょう。

私は学生で、人形劇をやっています。この六月に、私達にとっては哀しい故郷である、四月、五月はほとんど毎日練習でつぶしました。そんなままでしてなぜやるのかといわれると困りますが、でも結局、過程と、本番の拍手のためではないかと費やします。私たちの本番は土、日だったの三ステージでゆくおもしろさ。その三ステージのため、二ヶ月を費やしてやられているのは、仲間と、つたあげてゆくおもしろさ。加えて、上演してそれをお客様に伝えられたことのうれしさがあるからだと思うのです。

私たちのお父さん公演と違い、森繁さんは数多くのステージをこなされますね。それはもつと大変なことだらうけれど、もつと素晴らしいことでしょう。ひとつの作品を、こうも長く、愛し、演じ続けることができる貴方に、賛辞と羨望を贈ります。

久しぶりに味わつた充実感、突然お手紙を差上げます失礼をお許し下さい。私は、みちのく米沢に住まい至し

製造販売元  
東京都港区新橋5-16-15  
丸の内五弦  
東京03-3524-5140  
(毎日曜定休)

登録商標  
伊勢丹  
東急  
三越  
高島屋  
池袋西武  
小田急  
松坂屋  
大丸  
松屋  
京王

さ  
づ  
く  
つ  
ぶ  
れ  
て  
喉  
へ  
ど  
ろ  
け  
る  
素  
晴  
ら  
しい  
ぬ  
れ  
甘  
な  
つ  
と  
一  
度  
味  
わ  
え  
ば  
忘  
れ  
が  
た  
い  
味

ます、五十五歳になる主婦でございます。七月二十七日、とうとう念願がかなまして「屋根の上のヴァイオリン弾き」を観ることができました。あの感動を一生忘れこはないです。

次女が録音に住んでおりますので、思ひきつて切符の配を頼みました。運よく手に入り、東京、次女と観劇することになりました。初めてみるミュージカル、出演者一人一人の強い個性が織りなすチームワークの美しさ、森繁様の洒落な演技・役者魂に裏打ちされた、重厚な存在感等々……

三人の娘達が親の意に反して、それぞれ自立しようとする場面では熱いものがこみあげ、それを押さえることができませんでした。

イエンテおばさんは最後の悲しみたえて「どこへいっても仲人はするよ、一杯仲人して、沢山の子供をこの地上へ生みつけてふやすすだ」と言った言葉と、いったげられた人々のあたたかさを感じました。

そして、そんな困難にめぐり会つても神と未来を信じて疑わない人々のあたたかさを感じました。

久しぶりの味わつたこの充実感を誰にもこわされたくないと思ひで一杯です。



山形県米沢市 中山さん

ボクのテヴィエとゴールドも泣きました。最高でした！ 素晴らしい感動を本当にありがとうございました。

実は「屋根の上の」を観るのは今回で二度目だったのです。一度目は、今年の三月に、その時は、まだ大阪に勤務して居まして、梅田コマで拝見させて頂きました。その時、既にボクのテヴィエとゴールドに絶対に見たい、と強く感じたのです。

ボクのテヴィエとゴールドは、共に64才で、森繁おじさんのファンではありますが、四時間の長い劇、しかも、多分初めてであろうミュージカル、というものが理解し貰えるかどうか、かなり不安でした。

母は母なりに、また父は父なりに、それぞれゴールドとテヴィエに自分を込めさせて、笑い、泣き、考えさせられる、といった風でした。そして最後には、拍手、拍手、拍手、そして拍手でした。

テヴィエに笑われ、泣かされて、私は長野市に住む19歳の社会人二年生です。学生の頃から演劇が好きで好きで、たまにまで観てました。ずっと前から、森繁さんのテヴィエに会いたいと願って今回やっとその夢がかなったのです。

私はテヴィエに散々笑われて、そしてとどめなく泣かれました。何が哀しいのか、理解出来ぬ涙でした。もちろん芝居のストーリーが悲しいのも、役者さんの演技に泣かれたのもひとつの理由にはありますが、でも、それだけではなくて、もつと人間的で複雑な想いが私の心にはちがひなくあつた。そして、その言葉を聞いていたことは出来ません。劇場を出てから私はひとこと口を利かずに長野へ戻つて来ました。四時間近く続けた列車の中で私が考えていたのは森繁さんのこと。笑わずに下さった。私の心には、森繁さんという素晴らしい役者さんに触れてみたい、そんな想いが欲望が生まれてしまったのです。そんな事を考えて馬鹿だと自分も思います。森繁さん、私はより貴方をうらみま。またこれからは私に舞台上に夢中になり、私の父はそんな私に不安を感じる事になるでしょう。でも、森繁さん、それ以上に私は感謝しています。素晴らしい舞台を、暖かい心を本当にありがとうございました。屋根の上のヴァイオリン弾き、はいいつまでも多くの人々に愛されつづけると信じています。



長野県長野市 大窪さん

心洗われて、親は親るほど、このミュージカルは素敵です。何度観ても泣かれます。そして思ふうんで、よく、このミュージカルを世のツバサ君たちには是非観てもらいたいです。

彼らに子と思ふ親の心が少しでも理解できて、つた一筋でもいい、涙が頬をつたつたら……反抗心なんてどこかに飛んでいってしまうのではないですか。

かく言う私も随分と親不孝者ですが、このミュージカルを観て、テヴィエに、そしてゴールドに出会ったたび、心の洗われる気がします。そしていつも反省し、また己の幸福に改めて感謝してgoing on……

では、これから長い公演、お身体に充分お気を付けて頑張ってください。

ご婚礼  
ご宴会  
ご集会

茗溪会館

TEL (03) 943-0321

東京都文京区大塚1-5-22(地下鉄茗荷谷駅下車徒歩2分)







# FIDDLER ON THE ROOF

PLACE : Anatevka, a village in Russia.

TIME : 1905, on the eve of the revolutionary period.

## STAFF

Reproduced by :

Translated by .....TAKESHI KURAHASHI

Lyrics Translated by .....KAZUKO WAKAYA

KOHTARO TAKI

Choreographed & Directed (Japanese Production) by

SAMMY BAYES

Assist. Director .....HIROSHI SATO

Assist. Choreographer .....MICHINOSUKE SAKAGAMI

Musical Director .....KOTARO TAKI

RYO FUKUI

Set Designer .....BORIS ARONSON

KOTARO MAKI

Costume Designer .....BORIS ARONSON

KOTARO MAKI

Lighting Designer .....SABURO OHBA

Asst. Lighting Designer .....NAOKI OGI

Effecting Designer .....AKIRA HONMA

Orchestra .....TOHO Orchestra

Conductor .....GIICHI OHTANI

Japanese Production Arranged by .....TSUTOMU SATO

MAKOTO NAGANO

## CAST

Tevye, the Dairyman .....HISAYA MORISHIGE

Golde, his wife .....KAORU YODO

Tzeitel .....EIKO EZAKI

Hodel .....JUN ANNA(April)

Chava .....RYOKO MORIYAMA(May)

Shprintze .....YURIKO MATSUOKA(April)

Bielke .....JUDY ONGG(May)

his daughters .....CHINU IZUMI

.....JUNO HAYASHI

.....KIYOMI YOSHIDA

.....YUKO SHINOZAKI

Yente, the Matchmaker .....NATSUKO KAHARA

Motel, the Tailor .....HIROTARO HONDA

Perchik, the Student .....TAKAO INOUE

Lazar Wolf, the Butcher .....TSUNEHICO KAMUJO

Mordcha, the Innkeeper .....YUICHI YOKOZAWA

Rabbi .....KIITON MASUDA

Mendel, his son .....NAOYA MIKAMI

Avram, the Bookseller .....TAKUMA MIYA

Nachum, the Beggar .....YASUHIKO AIGISHITA

Yussel, the Hatmaker .....SHIN YASUDA

Grandma Tzeitel, Golde's grandmother .....KEIKO TOMITA

Fruma-Sarah, Lazar Wolf's wife .....KOKO ARAI

Constable .....FUJIO SUGA

Fyedka .....KENICHI KANEADA(April)

.....RYO HIKIME(May)

Shandel, Motel's mother .....IKUKO TAKAHASHI

The Fiddler .....MICHINOSUKE SAKAGAMI

and

Many other villagers and Russians.

## SYNOPSIS :

Time is 1905 when Russia was ruled by the Czar. This story takes place in a small village in Russia, which is called Anatevka where a group of Jewish families have settled down. These people still faithfully observe the old Jewish tradition.

Tevye is a hard-working milkman of the village, who talks to God almost on a man-to-man basis and happily misquotes the Good Book to cover any situation. Golde is his sharp-tongued but devoted wife and

mother of five dutiful daughters. The villagers rule the village according to their old traditions and have no interest in the world outside.

Yente is the villager's warm-hearted but garrulous and gossip-loving match-maker. One day she comes to Tevye's house with a good news. She says Tevye's oldest daughter, Tzeitel, is desired by Lazar Wolf, wealthy butcher and widow who sees the perfect wife in Tzeitel. Lazar is over 40 ..... too old for Tzeitel and not well educated .....but

## MUSICAL NUMBERS

### ACT I.

TRADITION .....Tevye and the Villagers  
MATCHMAKER, MATCHMAKER .....Tzeitel, Hodel, and Chava  
IF I WERE A RICH MAN .....Tevye  
SABBATH PRAYER .....Tevye, Golde, and the Villagers  
TO LIFE .....Tevye, Lazar, and Men  
MIRACLE OF MIRACLES .....Motel  
THE DREAM .....Tevye, Golde, Grandma Tzeitel,  
Fruma-Sarah and the Villagers  
SUNRISE, SUNSET .....Tevye, Golde, and the Villagers  
BOTTLE DANCE .....Yussel, Hershel, Shloime and Duvidel  
WEDDING DANCE .....The Villagers

### ACT II.

NOW I HAVE EVERYTHING .....Perchik and Hodel  
DO YOU LOVE ME ? .....Tevye and Golde  
I JUST HEARD .....Yente and the Villagers  
FAR FROM THE HOME I LOVE .....Hodel  
ANATEVKA .....Tevye, Golde, Yente, Lazar, Mendel and Avram  
EPILOGUE .....THE ENTIRE COMPANY

Tevye thinks it all right to give his daughter to him if Lazar can make her happy, and at least he is rich enough not to drive his daughter to starvation.

One day Tevye meets Perchik, revolutionary young university graduate, and asks him to look after his daughters' studying while he can offer board and meals in exchange. Perchik's arrival in Anatevka brings with it the wind of change, though.

Tzeitel is practical and strong-willed, and the first of Tevye's five daughters to break with tradition and marry for love. Because she is in love with Motel, the timid tailor with two ambitions, to marry Tzeitel and to buy a sewing machine. Their marriage means they are against the village rules, but Tevye finally gives his consent to their marriage as Motel is a nice and sincere hard-working young man.

At their wedding Lazar, the butcher, congratulates a newly wedded couple. Yente, the match-maker, is not happy because Tzeitel did not accept her marriage arrangement. So she brings up an argument. But people attending the reception later start dancing in celebration. At the climax of the reception a good-natured police sergeant breaks into the house with his men and ruins the party. This is done by orders from the authorities in order to oppress the Jews.

Tzeitel and Motel try to make a happy home together although they are poor. Tevye's second daughter, Hodel, is the boldest of his daugh-

ters and admires the non-conformist outlook of the man she loves, Perchik. She wants to marry him, but before her wedding takes place, Perchik leaves the village to join the revolutionary group. He thinks that it is his vocation and more important than his love for Hodel.

Later it is rumoured that Perchik has been arrested and put to hard labour in Siberia. So Hodel leaves for Siberia to be near her love.

Tevye's third daughter, Chava, is torn between her affection for her family and her love for a traditional enemy. Because she is in love with Fyedka, a Russian, whose horizons are broader than the average Russian villager and whose love for a Jewish girl changes his life.

Later when relatives gather at Motel's house to bless his new-born baby, Chava confesses her intention to marry Fyedka. However, Tevye never allows such a marriage between the people of different religions. At last Chava leaves home and runs away with Fyedka to have a wedding at a Russian church. Disgusted, poor Tevye says, "Chava is dead! Let's forget her." However more decisive blow is yet to attack Tevye: the authorities demand the Jewish people in Anatevka to leave the village within 3 days. Yente leaves for the sacred land, Israel, and others for America where there is freedom.

Thus Tevye, having being stripped of all his foothold on the old tradition, escapes to the new world with his family.



**ワリノ**

東京都千代田区有楽町1-13-2  
☎281-3201(代)



スクスク坊や

### 3. 税金は16%の源泉分離課税です

出演は、平幹二朗、太地喜和子、菅野忠彦、市原悦子、嵐徳三郎、金田龍之介、山岡久乃。演出は蜷川幸雄という、秋元松代が絶対の信頼を寄せる初演同様の顔ぶれです。

「桜の園」で女優として新たに第一歩を踏み出す遙くらら、という顔ぶれは、今や、秋の演劇界最大の話題になっています。「鹿鳴館」「唐人お吉」「松屋のお琴」と年々一作のペースを続ける佐久間良子にとって、東宝における初めての翻訳劇です。どうぞ注目下さい。



沢口靖子

さわぐちやすこ

テーマ曲「潮騒の詩」(東芝EMI) 6月レコード・デビュー

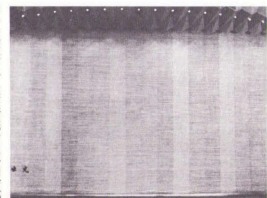
♡ プロフィール ♡

(本 名) 沢口靖子  
(生年月日) 昭和40年6月11日・双子座  
(出 身 地) 大阪府堺市・大阪府立泉陽高校卒業  
(血 液 型) A型  
(サイ ズ) 身長159cm/体重46kg  
B80・W58・H87  
(好きなスポーツ) テニス・水泳  
(趣 味) 音楽鑑賞・マスケット遊び・書道・  
ケーキ作り



帝國のこの源は、現代エジプトで作られて完成されたといふゴブツ・織物がそれとされてゐます。日本には仏教伝来と共に傳つたものも見受けられ、正統院室宮殿及び學問館にも見受けるが、京都御所界隈に若國（こく）の後、平安朝から、京都の御主人殿より若國に轉小作人達へ、余計にその技術を得し、織造社に至ると陣羽織の衣交等々多岐にわたる様式を以て、江戸時代には、新山車・神楽掛りの装飾品として、帝・打掛等にけ・祓祭・化粧廻しなど次第にその装束化へ進みつけられた。そして、近代大國物の出現により大國物織を製織するに至り、日本古來未だ國物に乏したゴブツ・織物も、日本古來未だに織技術の折衷とされつつある。音同四角

郎氏デザインによる西陣織の「金彩」  
(出光興産株式会社ご提供)



先生の指導のもとに製織され、これを縦帯に換算致し、つとむと名紙帳、約10本分に相当するものというものです。尚、東劇には彩を添えるという一本の紙帳とす。市川魁夷は彩の手になうの新作「皆様に」に載っていました。金彩は出品興産株式会、銀彩は富士ゼロツク株式会、そして東山画伯作はカネボウ株式会、以上三社の「提供による豪華紙帳」

のご指導により作製致しました。厚く御礼申し上げます。

(綴帳のご紹介はこれで終わります)



宝塚歌劇 4月 宝塚歌劇70周年  
星組公演  
●グランドレビュー 作・演出●植田紳爾  
**春の踊り**  
祝いまだら  
●ショー・ミュージカル 作・演出●草野 旦  
**プラスワン**  
ある3つの夢物語

山崎はるか  
峰さき理  
南風まい

新しく美しく花に舞う、春のおどりと  
ファンタジックなメルヘンの世界——

4月5日初日・30日まで  
好評前売・電話予約受付中  
■電話での予約は TEL 03(591)8100代  
■当劇場へのお問い合わせ TEL 03(591)1711代

料金 ●A席 3500円  
●B席 2500円  
●C席 1500円  
●D席 800円

ヒビヤ **東京宝塚劇場**

有吉佐和子 原案 演出  
大藪 郁子 脚本  
**香華**  
(新劇)  
巴熱の山田五十鈴が  
有吉文季の女の世界に  
あなたを引き込みます  
芸術座3・4月  
製作 三浦川 安達 隆夫  
山田五十鈴  
有馬一郎  
お母さんは  
何度結婚したか  
私はそのせいで  
いまだに結婚できないの……

絶賛上演中  
4月29日  
好評前売・電話予約受付中  
■電話予約は 03(591)7633  
●お問い合わせは TEL 03(591)2333代へ  
●4月

料金 ●A席 6800円  
●B席 3500円

ヒビヤ **芸術座**

山田五十鈴  
有馬一郎  
お母さんは  
何度結婚したか  
私はそのせいで  
いまだに結婚できないの……

東宝ミュージカル日生5月特別公演  
**デュエット**  
脚本●ニール・サイモン  
作曲●マービン・ハムリッシュ  
作詞●キャロル・ペイパー・セイガー  
訳●小田島雄志 訳詞●岩谷時子  
演出●アレン・ベルナップ  
製作●吉川真(田口要)  
歌って・踊って 2人3脚めざせゴールはヒット&ラブ!

5月4日初日・28日  
好評前売・電話予約中  
■電話での予約 (東宝日生公演係へ)  
お問い合わせは  
03(501)4211代まで  
料金 ●A席 7000円・B席 4500円・C席 3000円

◎日生劇場 NISSEI THEATRE

花の吉原 製作 菅野悦晴  
つぎ馬屋 中村勘三郎  
江戸は、  
花の吉原を舞台にくりひろげる  
にんげんたちの浮世のいくさ  
涙と笑いがうずまく  
天下品の豪華舞台!

浜 木綿子  
森 光子  
皇居前  
帝国劇場

帝劇7月特別公演  
小幡欣治 作・演出

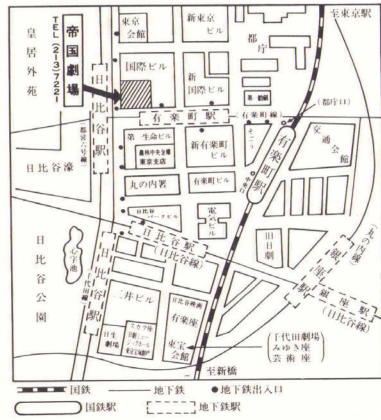
7月4日初日・31日  
5月下旬前売及び電話予約開始!

料金 ●A席 7000円・B席 4500円・C席 3000円



## 帝国劇場ご案内

### 交通のご案内



- ・国 電  
有楽町駅都庁口下車徒歩3分
- ・地下鉄

(日比谷線) (都営三田線) 日比谷駅下車  
(有楽町線) 有楽町駅下車 (丸の内線) 銀座駅下車  
(千代田線) 日比谷駅または二重橋前駅下車  
(東西線) 大手町駅下車、または同駅乗換 (千代田線) 日比谷駅下車  
(銀座線) 銀座駅下車、または同駅乗換 (日比谷線) 日比谷駅下車  
(都営浅草線) 東銀座駅乗換 (日比谷線) 日比谷駅下車  
または、三田駅乗換 (都営三田線) 日比谷駅下車  
(都営新宿線) 神保町駅乗換 (都営三田線) 日比谷駅下車  
以上の各駅が最寄りの駅となります。

#### ・駐車場完備

お車でお越しのお客様は、劇場地下4階の駐車場をご利用になりますと、エレベーターで直接劇場1、2階客席へお入りいただけます。  
尚、これまで国際ビルガレージ株式会社のご同意により、ご観劇のお客様に駐車場割引証を発行して参りましたが、国際ビルガレージ株式会社の都合により、55年4月1日以来お客様に割引の便宜を計ることができなくなりました。何卒ご承知下さいませ。

#### ・雨天の場合

地下道で、有楽町、日比谷、銀座、さらには二重橋前、大手町、東銀座の各駅と直結しておりますので傘なしでも濡れずにおいでいただけます。

## お 客 様 へ

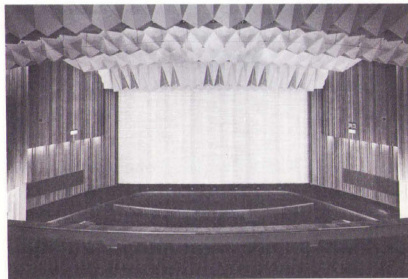
いつも当劇場をご利用下さいましてまことに有難うございます。

- 客席内でのおたばこは火災防止のため堅くお断り致します。必ずロビーの灰皿をご利用下さるようお願い申し上げます。
- 舞台撮影及びテープでの録音は、特定写真機以外、堅くお断り申し上げます。
- 芝居をこわす掛声等、他のお客様にご迷惑な行為はご遠慮申し上げます。
- 開演中のお呼び出しは出来ません故、遅れてご入場のお連れ様のお切符は正面玄関受付にお預け下さい。
- ご観劇の際はお座敷番号を自宅にお伝え下されば、急用のお呼び出しが便利です。
- 危険ですから2階の手すりにもたれてのご観劇はご遠慮下さい。また手すりの上に手荷物等を置かぬようご注意ください。
- 出演者の病気その他の事故のための代役は悪しからずご了承下さいませ。
- ご気分が悪くなった方はご遠慮なく係員にお申出下さい。
- その他、従業員のサービス等でお気付きの点がありましたらお申出下さい。
- 落し物、お忘れ物、おとづけは正面玄関受付にて承っております。

### 劇場の特色

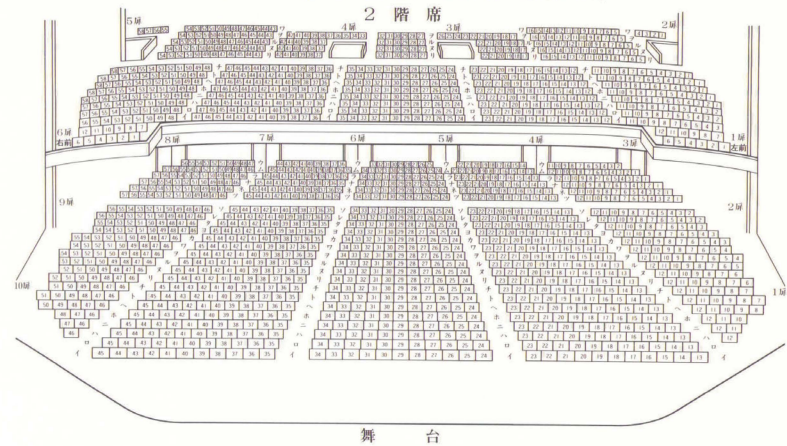
- 世界の近代建築の粋をあつめた理想の大劇場です。
- 開口18メートルの本舞台とその左右には18メートルの脇舞台を有しすべて電動による9個のセリ上がり及び直径16メートルのまわり舞台、直径12メートルの自由自在に動く左右のスライドステージ等、世界一流の舞台機構を有しております。
- 最新式の音響設備と照明設備による素晴らしい舞台効果は他に類のない優秀なものです。
- 暖冷房が完備しておりますので、四季を通じて快適です。

劇場定席	1階席～1,156	2階席～688	合計
			1,844



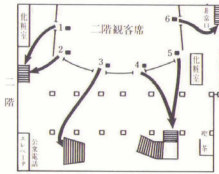
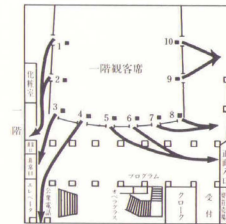
## 帝国劇場座席表

○お願い 火災その他非常の場合は係員が一番安全な方法でご誘導致します。

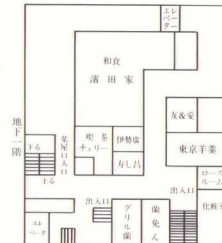


### 場内のご案内

矢印は退避経路を示します。



化粧室は地下1階にもございます。



#### 地下へのご案内

食卓及び駐車場ご利用のお客様は階段が混雑致しますので、エレベーターをご利用下さいませ。  
地下食堂街には別の出入口がございますので開演前や終演後にご利用いただけます。

地下名店食堂街 (劇場からご自由にご利用出来ます)



地下食堂街へお越しの際は外出になりますので、必ずご入場券を携帯下さいませ。

通常開演の30分前に開場いたします。  
1・2階左右両側廊下に無料コインロッカーがございます。  
営業事務所は2階上手ロビー突き当たりでございます。







親から子へこの感動を伝えて下さい！

東宝ミュージカル

製作●佐藤 勉/永野 誠

ジョセフ・スタイン●台本 ジェリー・ボック●音楽 シェルドン・ハーニック●作詞  
倉橋健●訳 若谷和子/滝弘太郎●訳詞

# 屋根の上の ヴァイオリン弾き

—ショラム・アレイハムの小説による—

オリジナルプロダクションの演出・振付●ジェローム・ロビンズ (早川書房刊)  
日本公演の演出・振付●サミー・ベイス

またとないこの機会をお見逃しなく！

4月1日初日⇒5月31日  
好評前売電話予約中！

東宝

皇居前

帝国劇場

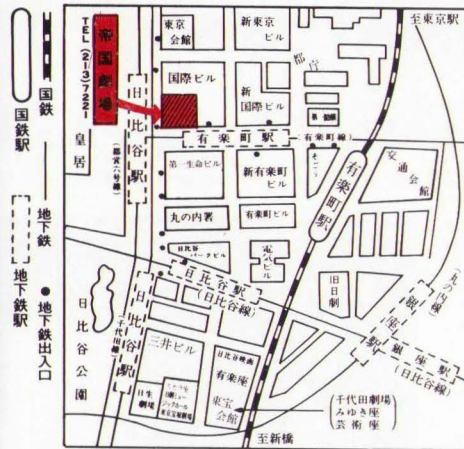
TOHO CO., Presents  
FIDDLER ON THE ROOF  
BASED ON SHOLOM ALEICHEM'S STORIES

Book by JOSEPH STEIN  
Music by JERRY BOCK  
Lyrics by SHELDON HARNICK

Original New York  
Productions Directed  
and Choreographed by  
JEROME ROBBINS

Presented on The  
New York Stage by  
HAROLD PRINCE

By Special Permission of  
ARNOLD PERL



●交通のご案内

国電地下鉄から歩いて2分  
地下鉄都営六号線、有楽町線、日比谷線、  
千代田線の各日比谷駅からもち便利です。

帝劇は電話予約が便利です！ ☎03(212)4611(代)

●受付時間／午前10時～午後5時半

- お宅に居ながら切符が確保できます。
- お取引の方法は………
- ①予約日から10日以内のご都合の良い日に帝劇で。  
(午前10時半～午後5時半)
- ②ご都合の悪い方は代金引換えでお宅までお送りします。  
(郵送料310円)

団体ご観劇、その他のご用命は03(213)7221(代表)へ  
何卒お願い申し上げます。

お芝居の殿堂 東宝 皇居前 帝国劇場

〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1

帝劇に今日も楽しい世界の拍手



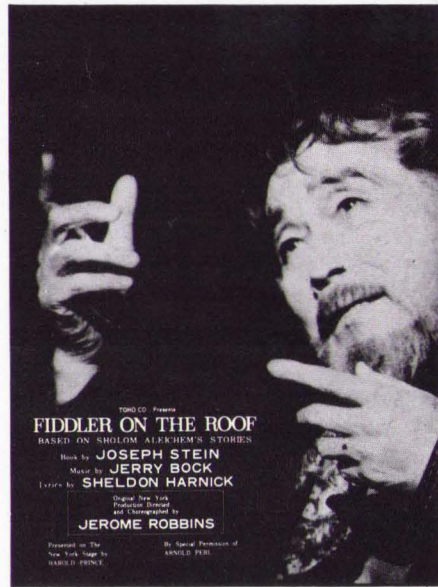




●ラビ(司祭) 益田喜頓 ●巡査部長 須賀不二男 ●ユッセル(帽子屋) 安田 伸 ●モールチャ 横沢祐一 ●ヴァイオリン弾き 坂上道之助 ●フォードカ 暮目 亮 (5月) ●フォードカ 金田賢一 (4月) ●メンデル 三上直也 ●フルマセラ 荒井洗子 ●ロシア人(テノール) 藤原章雄 ●ツァイトル婆さん 富田恵子 ●イエンテ(侍人婆さん) 賀原夏子 ●ラザール(肉屋) 上條恒彦 ●バーテック(学生) 井上孝雄 ●モートル 本田博太郎 ●チャヴァ(三女) 5月 ユーディ・オング ●チャヴァ(三女) 4月 松岡由利子 ●ホーデル(次女) 5月 森山良子 ●ホーデル(次女) 4月 安奈 淳 ●ツァイトル(長女) 江崎英子 ●ゴールド(その妻) 淀 かおる ●デヴィエ 森繁久彌

アナテフカ  
この村の 小さな石も 木も 細い道も  
みんな 知りつくしている  
それは わたしの ふる里だ  
子供が出来て 女の子で その次ぎが  
生まれて これも女の子だ  
手塩にかけて すこやかに育てと  
五人の娘たちのために 母さんと働いた  
なのに どうしたことだろう  
長女も 次女も そして三女も  
両親の云うことをきかない  
それもいい 幸せなら許しもしよう  
ふる里の空は 今日も透きとほるように  
晴れているのに わたしたちは この里  
をあとに見も知らぬ国へゆく  
せめて 胸をはって 涙をぬぐって  
新しい土を求めて 旅立とう  
さらば 懐しの友たちよ

おお 津



TOKYO CO. Presents  
**FIDDLER ON THE ROOF**  
BASED ON SHLOM-ALEKHEM'S STORIES  
Book by JOSEPH STEIN  
Music by JERRY BOCK  
Lyrics by SHELDON HARNICK  
Original New York Production Directed and Choreographed by JEROME ROBBINS  
Presented on The New York Stage by HAROLD PRINE  
By Special Permission of ARNOLD PERI

東宝ミュージカル 製作●佐藤 勉/永野 誠  
ジョセフ・スタイン●台本 ジェリー・ボック●音楽 シェルドン・ハーニッ●作詞 倉橋健●訳 若谷和子 滝弘太郎●訳詞  
**屋根の上のヴァイオリン弾き**  
——ショラム・アレハムの小説による——  
オリジナルプロダクションの演出・振付●ジェローム・ロビンズ (早川書房刊)  
日本公演の演出・振付●サミー・ベイス  
演出補●佐藤浩史 振付補●坂上道之助 音楽監督●福井峻 滝弘太郎  
音楽指揮●大谷肇 演奏●東宝オーケストラ  
装置●ボリス・アロンソン 真木小太郎 衣裳●真木小太郎  
照明●大庭三郎 効果●本間 明



4月1日初日⇒5月31日/好評前売及電話予約中!

東宝 皇居前 帝国劇場

4月																															5月																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
曜	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月

料金 ■ A席9800円  
B席6500円  
C席3000円  
■当劇場へのお問い合わせ 03(213)7221へ

帝劇は電話予約が便利です/03(212)4611代 受付時間/午前10時半~午後5時半(前売初日は10時より)  
■お宅に居ながら切符が確保できます。(平常でも電話予約専門に20台の電話で承ります) ■お座席番号もその場でお約束します。  
■お引取りの方法は…①予約日から10日以内のご都合の良い日に帝劇で。②ご都合の悪い方は代金引換えてお宅までお送りします。(郵送料310円)